



大学教育再生加速プログラム

平成 30 年度報告書

大学教育再生加速プログラム(AP)

[テーマ I・II 複合型]



宮崎国際大学
Miyazaki International College

目次

I. はじめに	1
II. 宮崎国際大学の AP 事業	3
1. 本学 AP 事業の概要	4
2. 本学 AP 事業の全体的な進捗状況	5
III. 平成 30 年度活動報告	9
1. 平成 30 年度 AP 事業全体の目的及び成果	10
2. AP 関連の FD 研修会	12
3. テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）への取組	14
4. テーマⅡ（学修成果の可視化）への取組	23
5. 高大接続への取組	35
6. AP 事業への学生の参画	38
7. 大学教育再生加速プログラム合同シンポジウム	43
8. シンポジウム・学会への参加及び発表	63
IV. 平成 30 年度外部評価委員会	74
1. 外部評価委員会 概要	75
2. 外部評価委員会 総評	76
V. 参考資料等	78
1. アクティブ・ラーニングの手法の体系化	78
2. MIC-AP ニュースレター	83
3. 宮崎国際大学 AP プロジェクト・メンバー	87

I. はじめに

－AP 事業への取り組みについて－

宮崎国際大学 学長 山下 恵子



平成 26 年度に採択された文部科学省の「大学教育再生加速プログラム（AP）」は 5 年間の取組を終えました。テーマⅠ「アクティブ・ラーニング」とテーマⅡ「学修成果の可視化」の複合型の本学での取組は、これまで 4 つのワーキンググループによって活動を行ってきましたが、平成 30 年度は個々の活動を一つに統合することができました。

AP に採択されてからの 5 年間に、多くの他大学等でアクティブ・ラーニングが導入されてきましたが、対話をしながら深い思考を求めるアクティブ・ラーニングの実施方法についてはまだまだ模索が続いているように思います。さらに、学修成果の可視化では、可視化のために複数のツールを定めることの難しさを感じられます。本学においても学修成果の可視化をなぜ行うのかという本質的な課題にぶつかり、学生自らが成長を実感できるために可視化を行うべきであることが再確認されました。

平成 30 年度からの新たな取組である「学生による AP 改善委員」の導入は、本取組を大きく進展させました。これまで教員の視点で考えてきた AP を学生の視点から捉えなおすということを通して、教員側は多くの気づきを得る事が出来ました。

クリティカル・シンキング能力育成に焦点を当てた「AL 事例集」の作成、独自に開発し実施、検討・分析したクリティカル・シンキングテスト、ディプロマ・ポリシー（DP）の 5 項目に対応したルーブリック付きシラバス、DP で定められた学修成果を可視化するため e-ポートフォリオへのレーダーチャート導入など、更なる e-ポートフォリオ活用に資するシステムの開発が行われました。

関西国際大学との AP 合同フォーラムの実施、AP 外部評価委員会による評価など、本学事業の推進には多くの方々から協力を頂きました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

本学の AP 事業が日本の教育界に貢献できるよう、最終年度を全力で取り組んで参ります。今後ともご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

II. 宮崎国際大学の AP 事業

1. 本学 AP 事業の概要

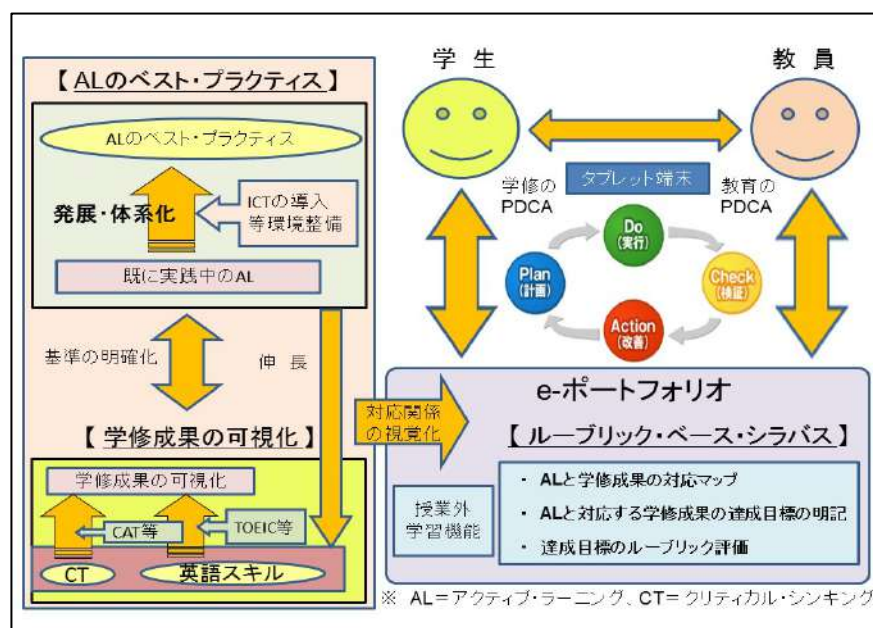
事業の概要

宮崎国際大学は、グローバル化社会において活躍できる人材の育成という教育目標の実現のため、20 年前の開学当初からほぼ全ての授業で英語を用いたアクティブ・ラーニング（以下、AL と呼ぶ。）を実施する特色ある教育を行ってきた。今回採択された本学の取組は、これまでの教育実践を基盤に、本学教育の主要な学修成果であるクリティカル・シンキング（以下、CT と呼ぶ。）と英語スキルの可視化を行い、これらの修得を最大化させる AL 手法の開発、実践及び体系化を行うものである。本事業の特徴は大きく 3 つある。1 つ目は、これまで実践してきた AL のベスト・プラクティスの明確化である。2 つ目は、このことと関連して CT と英語スキルの可視化を行うことである。3 つ目は、AL と CT 及び英語スキルの対応関係をルーブリック・ベース・シラバスにより視覚化し、学修の PDCA サイクルを確立することである。

事業の目的

宮崎国際大学は、開学以来国際的リベラル・アーツ教育を軸に、ほぼ全ての授業を英語で行い、また AL を導入している。しかし、これまでの取組では、効果的な AL に必要な CT の技能をはじめ、AL による学修成果を可視化する客観的な測定・評価が不完全であり、また AL をさらに発展させるための物的資源の環境整備が整っていない等、不十分な点があった。そこで、本事業では、①従来の AL をさらに発展させ、ベスト・プラクティスの明確化と達成を目指す、②CT を客観的に測定・評価するツールを開発する、③②の開発に伴う英語スキルを向上させる AL プログラムを構築する、④e-ポートフォリオを用いて学修成果の可視化を行う、⑤ルーブリック・ベース・シラバスの導入による学修の PDCA サイクルを確立させる、の 5 つの取組を包括した事業を展開することで、本学教育のさらなる質向上を目指すことを目的とする。

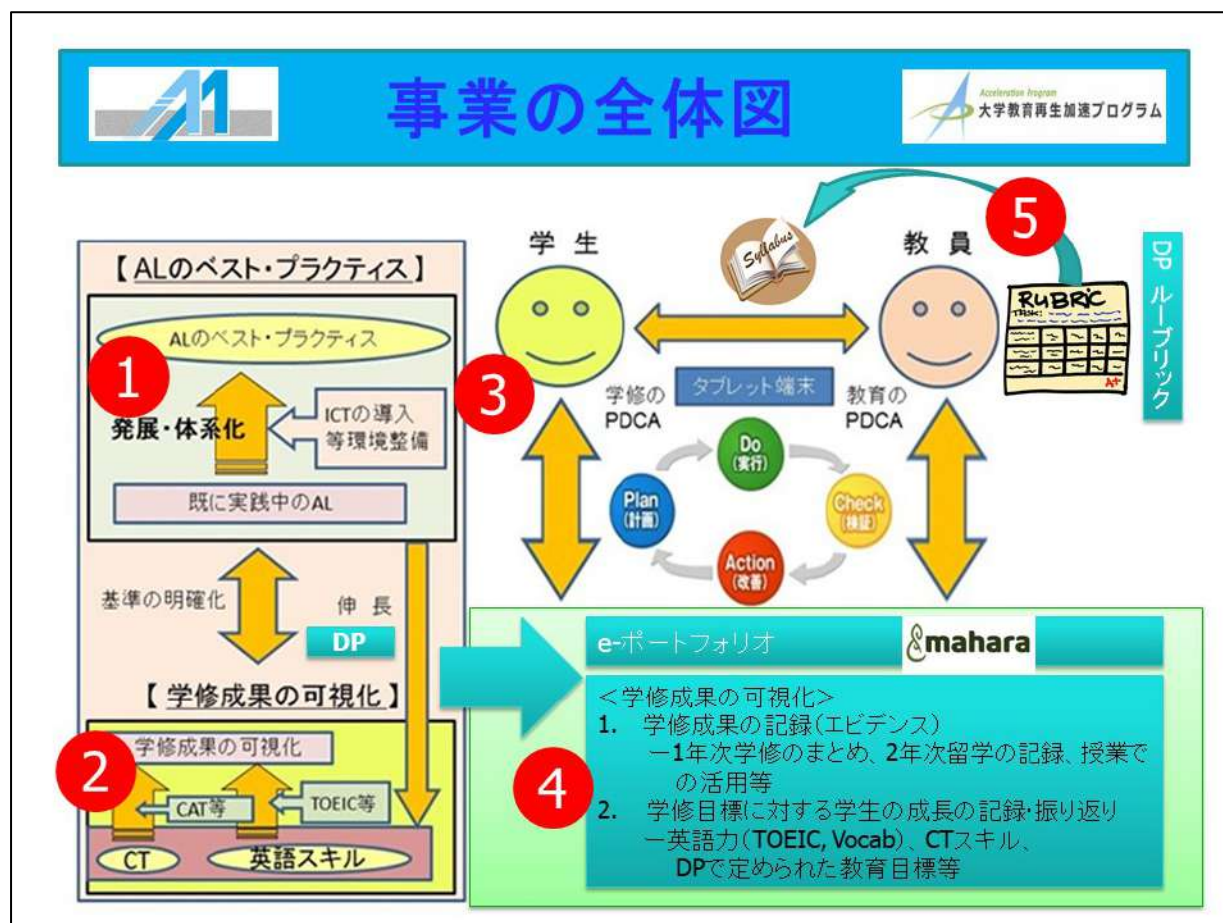
本学 AP 事業の概要図



2. 本学 AP 事業の全体的な進捗状況

本学の AP 事業の具体的な目標は、以下の5つである。

- ① 従来の AL を更に発展させ、ベスト・プラクティスの明確化と達を目指す。
- ② CT を客観的に測定・評価するツールを開発する。
- ③ ②の開発に伴う英語スキルを向上させる AL プログラムを構築する。
- ④ e-ポートフォリオを用いて学修成果の可視化を行う。
- ⑤ ルーブリック・ベース・シラバスの導入による学修の PDCA サイクルを確立させる。



目標①及び③：AL の体系化及び効果的 AL の特定・普及、
及び AL プログラム構築への取組

AL の実態把握及び体系化

- 教員へのインタビュー及び授業観察を通じて、宮崎国際大学で教員が使用している AL の手法を AL の特性に応じた 33 種類に分類した。この分類に基づいて、AL の調査や事例集に使用している。→詳細は、VI の参考資料を参照
- 平成 28 年度～平成 30 年度は、国際教養学部の教員が頻繁に使用している AL の手法に関

する調査を実施した。本学で頻繁に使用している AL の実態把握及び体系化に向けての活動が始まった。本学の AL の実態をより具体的に提示し体系化することができた。

- また、AL に関する学生への調査も開始され、学生の視点からの授業での AL の使用頻度や、学生の AL に関わる主体的な学修行動の調査も行われた。
- 平成 30 年度は、教育学部でも同様のアンケートを実施し、全学的な AL の実態を把握することができた。

FD 研修を通じた AL に関する学内意識・技術の促進

- AL ワーキンググループによる FD 研修は、毎年、約 2・3 回実施され、アンケート調査の結果報告や効果的な AL の手法の紹介を行うことで、本学教員への AL に対する知識及び指導力向上に役立っている。

効果的な AL の特定及び普及、効果的な AL プログラム構築に向けて

- 平成 30 年度に、これまでの AL の手法の把握及び体系化への取組をさらに発展させるため、教員が授業で使用している AL の手法の実践事例を集め、CT 能力及び英語力に焦点を当てた AL の事例集を作成した。
- 事例集を学内共有するためのホームページを立ち上げ、教員の AL の実践力を向上させる仕組みを整備することができたので、大学全体の AL の実践力の向上が期待できる。
- これまでの AP への取組を、学生の視点から効果的に享受し活用するための方策を考える「AP 学生グループ」を立ち上げた。主体的学修を促進するためにはどうすればいいのか、学生自身が検討し、AL の授業への効果的な取組方法をまとめ、e ポートフォリオの活用についても、学生目線でその効果を検証し、改善案を提示した。

目標②：クリティカル・シンキングを客観的に測定・評価するツールの開発

テスト開発に向けての活動

- アメリカで CT のアセスメントテストを開発した、テネシー工科大学のワークショップに教員を派遣し、CT のテストに対する知識を深めた。
- そこで得た知見を基に、宮崎国際大学独自の CT テストを作る準備が整い、テストの試作版が完成した。
- 平成 28 年度、テスト初版を作成し、数名の学生によるパイロットテストを実施した後に、国際教養学部の学生へのテスト実施を開始した。テストで使用される言語は英語で、第二言語としての英語で学修する国際教養学部の教育環境に合わせたテストとなっている。英語力を測定するテストとならないように、テストに使用される英語の難易度なども議論し、テストは作成された。
- 初期データの分析を基に、7 種類の CT 能力を測定するテスト第 2 版が平成 29 年度 4 月に完成した。

- テストは、計 26 問の選択式の問題で、学生は一定の文章を読み、質問に対して 4 択の中から 1 つ正解を選ぶ。以下の 7 つの能力に沿った能力を測定するように、テストは作成されている。

①重要な情報の特定、②情報の正確性を見極め、③問題解決の方法と攻略法、④情報の分類化、⑤多面的思考、⑥情報の活用、⑦演繹的推論

妥当性・信頼性のあるテスト開発及びテストの活用方法の特定

- 継続的にテストを実施し、その結果の分析・検討を継続して行うことで、データの蓄積を図り、必要に応じてテストを改訂し、2019 年度に最終版を完成させる。
- CT 能力の育成に焦点を当てた AL の手法の FD 研修会を実施し、テストが測定する CT 能力と授業で実践する AL により育成する CT 能力を対応させた。
- 本学での CT 能力をテストにより可視化し、また、その能力を授業での AL によって育成するという土台が構築し、学生の CT 能力の効果的な育成に役立つ。

目標④：e ポートフォリオを用いて学修成果の可視化を行う取組

e ポートフォリオの構築及びこれまでの活用

- e ポートフォリオシステム（ムードル及びマハラ）を構築した。
- e ポートフォリオの使用法に関する FD 研修が行われ、教員間での e-ポートフォリオの知識が深まった。
- 学生に対しては、e-ポートフォリオ・オリエンテーションを実施し、操作説明を周知している。
- e ポートフォリオ使用の普及活動を行った結果、AL のエビデンスを含めた e ポートフォリオが授業に導入された（リベラル・アーツ入門、世界市民、ICT 入門、キャリアデザイン、一部の英語の授業）。
- 英語力ページ、国際教養学部 1 年生のページ、国際教養学部 2 年生の留学ページが導入された。

学修成果の可視化のための更なる e ポートフォリオの活用

- 継続的に、新入生及び在学生へのオリエンテーションを行い、使用方法を適宜指導する。
- 本学での 4 年間の学修を通じた有効活用を目指し、3 年次のまとめページ及び 4 年次の卒業論文ページの開発を行った。
- 学修外時間管理プラグイン、DP で定められた学修成果を可視化するためのレーダーチャートやフロントページなど、更なる e-ポートフォリオ活用の準備を進めた。
- 学生に DP に沿った学修成果を認識させ、本学で学修において、常に目的意識を持って臨む態度を醸成させる効果が期待でき、教育効果の向上に大きく寄与する。

目標⑤：ルーブリック・ベース・シラバスの導入による 学修の PDCA サイクルを確立させる取組

共通ルーブリックの作成

- 国際教養学部学修成果ルーブリックに含まれる項目の教員への調査が行われ、その結果、国際教養学部共通ルーブリックが作成され、シラバスに導入された。
- このルーブリックの概要説明及び授業での活用法に関する FD 研修が行われ、教員間でのルーブリックに対する認識が向上した。

共通ルーブリックの改良

- 本学と同じ AP 校でルーブリックを先進的に活用している関西国際大学でのルーブリック活用を視察・意見交換することで得た知見を基に、これまでの本学でのルーブリック活用を改善した。ディプロマ・ポリシー（以下、DP と呼ぶ。）に関連した 5 つの項目である Advanced Thinking（高度な思考力）、Global Perspective（国際的な視野）、English（英語力）、Japanese（日本語表現力）及び IT Skills（情報通信技術）の各の項目に対し、8 つの具体的な能力を測定する文章を作成し、合計 40 の小項目（5 項目×各 8 つの文章）で DP に関わる能力・資質を自己評価するシステムを導入した。

DP の達成度を測定する 40 項目の運用

- DP の達成度を測定する 40 項目を使用し、入学直後と 1～4 年次末に、学生は自己評価を実施した。
- 教員が各授業科目で扱う DP の項目を明確にすることで（40 項目を使用したカリキュラムマップの作成）、授業で 40 項目の育成を目指した教育を提供し、学生及び教員の両方から大学全体で学修目標を到達させるように取り組んでいる。
- 2019 年度には、40 項目の自己評価結果を e ポートフォリオに組み込み、学生自らが DP で示された教育目標の達成に向けた PDCA を行える土台を完成させる。

III. 平成 30 年度活動報告

1. 平成 30 年度 AP 事業全体の目的及び成果

平成 30 年度の目的は、主に 5 つあった。

- ① 1 つ目は、これまで実施してきた教員への AL に関するデータ収集を全学的に（教育学部も含み）実施し、本学の AL の実践の実態を鮮明にすることである。また、授業で使用している AL を伴った具体的な指導例を教員から収集し、その中から AL のベスト・プラクティスとなる一定の体系化したモデルを構築することである。
- ② 2 つ目は、平成 28 年度、平成 29 年度と 2 年間にわたって実施してきた本学独自の CT テストを、その最終版の作成と平成 31 年度における公表を念頭に、さらに多くの学生に対し実施し、データを蓄積しつつ、その成果の検討・分析を行うことである。
- ③ 3 つ目は、平成 28 年度から活用を進めているルブリックをディプロマ・ポリシーの教育目標により沿ったものへと改訂し、教員の授業での活用及び学生の自己評価に役立てることである。
- ④ 4 つ目は、平成 27 年度から着実に進めてきた、学修成果を可視化するための e-ポートフォリオの活用のさらなる推進を図ることである。具体的には、昨年度導入した e-ポートフォリオの新機能を活用し、英語で授業をする本学にとって重要な、学生の英語学習の成果を e-ポートフォリオ上で見える化し、学生の学修意識・動機の向上を図ることである。
- ⑤ 5 つ目は、英語スキルを向上させる教授法の全体像を把握するために、特定の英語スキルと関連した AL の手法の調査をすることである。

今年度の目的に沿った実績報告

- ① 今年度は、教育学部においても AL の利用実態に関するアンケート調査を実施し、大学全体での AL の実態を把握することができた。調査を通じて、教員は自分の使用している AL の手法を鑑みることができ、授業で使用している AL の頻度、及びその学修効果について考える良い機会となった。更に、本学の開学以来の教育目標である「AL による CT 能力の育成」の実現に向け、特定の CT 能力を伸ばす AL の手法に関する FD 研究会を開催した。この FD 研修会では、教員は特定の CT 能力を育成するための AL の実践方法を学び、AL の実践的指導力が上がった。また、教員全体の AL の実践力の向上のため、本学で実践されている AL の指導例を効率的に収集・共有する「AL ホームページ」を立ち上げ、いくつかの実践例を掲示することができた。今後は、このホームページをより充実させ、大学全体の AL の指導力の向上に役立てることで、英語で授業を実施している国際教養学部で重要な英語力、そして、重要な教育目標の一つである CT 能力をより効果的に向上させることができる。
- ② 計画に従い CT テストを実施し、その結果の検討・分析を行い、テスト改善のためのデータを得ることができた。また、前述した通り、CT 能力の育成に焦点を当てた AL の手法に関する FD 研修会を実施した。CT テスト開発の進展状況を教員間で共有し意見交換することで、CT テストに対する教員の理解を深めるとともに、テストが測定する CT 能力と授業の AL で育成する CT 能力を対応させることができた。これにより、本学での CT 能力をテストによ

り可視化し、授業での AL によって、その能力を育成するという土台が構築でき、学生の CT 能力の効果的な育成につながった。

- ③ 今年度は、DP で示した教育目標の達成のためのシステムを利用し、学修成果の可視化への取組を推進することができた。具体的に、平成 30 年度の国際教養学部の新入生全員に対して、40 項目に対する自己評価を実施し、本学 DP の教育目標を周知するとともに、入学時点での DP に対する到達度を測定した。また、年度末には、国際教養学部の全ての学年の学生が 40 項目の自己評価を行った。更に、教員は各授業で育成する 40 項目を特定し、授業科目で扱う DP の項目を明確にし、授業内での DP の能力育成に向けた授業展開ができるようにも取り組んだ。このシステムを継続的に運用することで、学生及び教員の両方から、DP で示した学修目標を到達するよう取り組むことができる。また、このシステムに関する FD 研修会を実施し、DP の重要性及び授業内での DP で示した能力の育成に関する教員理解が促進できたので、学生の DP 達成に大きく寄与するものと期待される。
- ④ 今年度も、適宜、学生へのオリエンテーションを実施し、e-ポートフォリオ活用を更に推進した。昨年度と同様に、国際教養学部 1 年生の学年末ページのオリエンテーション及び国際教養学部 2 年生への留学オリエンテーションを開催し、e-ポートフォリオの活用方法を周知することで、学生はそれぞれの用途に合った e-ポートフォリオを作成し、学修を振り返ることができた。今年度からの新たな取組として、英語で授業を行う国際教養学部で特に重要な英語力をまとめるページを導入した。このページでは、語彙力や TOEIC の点数などの英語力を学生自らが管理し、英語力の進捗に対する振り返りを実施することで、主体的な学修を促進している。また、これまでの本取組は低学年における e-ポートフォリオの活用がその中核となっていたが、本学での 4 年間の学修を通じた有効活用を目指し、3 年次のまとめページ及び 4 年次の卒業論文ページの開発を行った。更に、DP で定められた学修成果を可視化するためのレーダーチャートなど、更なる e-ポートフォリオ活用の準備を進めることができた。学生に DP に沿った学修成果を認識させ、目的意識を持って、本学での学修に臨む態度を醸成させる効果が期待できる。
- ⑤ 教員が授業で使用している AL の手法の実践事例を集め、CT 能力及び英語力に焦点を当てた AL の事例集を作成した。また、事例集をホームページ上で学内共有することで、教員の AL の実践力を向上させる仕組みを整備することができた。英語力や CT 能力などの特定の教育効果を上げる AL の手法を教員間で共有することで、AL の実践力向上につながり、授業内での学生の CT 能力や英語力の更なる育成が期待できる。

2. AP 関連の FD 研修会

	日時	参加教員数	タイトル
①	4 月 20 日	39 名	平成 30 年度 AP 事業の推進について
②	6 月 21 日	16 名	アクティブ・ラーニングでのクリティカル・シンキング能力の育成
③	7 月 20 日	17 名	ループリックを使用したディプロマ・ポリシーの教育目標の可視化
④	1 月 10 日	10 名	最終年度に向けた AP 事業について

①全学合同FD研修会

- ◆ 日 時 平成 30 年 4 月 20 日（金） 14：40～16：10
- ◆ 場 所 1-201
- ◆ 内 容 平成 30 年度 AP 事業の推進について
- ◆ 参加人数 教員 33 名（国際教養学部 23 名：教育学部 10 名） 職員 6 名
- ◆ 発表者 大関智史（AP アセスメントオフィサー）

FD 研修会の内容

AP 事業を担当している AP アセスメントオフィサーが、本学のこれまでの AP 事業への取組及び今後の予定を全教員に対して発表した。

まず、AP 事業の背景及びそれに伴う文部科学省の動向を紹介し、文部科学省が国として進める教育改革の方向性の中に AP 事業が成り立っていることを説明した。続いて、多様化し常に変化する社会に対応できる人材を輩出するための大学教育の担う役割や重要性についての説明をし、そういった社会で活躍できる人材を輩出するための AP



事業の役割、そして、本学の AP 事業の概要及び具体的な目標を紹介することで、参加した教員は本事業への理解のみならず、AP 事業の背景知識も深めることができた。続いて、本事業へのワーキンググループのこれまでの活動を説明し、実際に実施している活動への理解を促すことで、本事業への教員の関わりについて考えることができた。最後に、本事業の今年度の予定を発表し、今後、本事業を成功させ、学生への教育効果が高まり、社会のニーズに答える人材が育成できるよう、大学一丸となって取り組むように全教員に周知し発表は終了した。

②詳細はテーマⅠ（アクティブ・ラーニング）への取組を参照。

③詳細はテーマⅡ（学修成果の可視化）への取組を参照。

④最終年度に向けた AP 事業について

- ◆ 日 時 平成 31 年 1 月 10 日（木） 16 : 10～17 : 10
- ◆ 場 所 1-201
- ◆ 内 容 これまでの進捗状況（e ポートフォリオ及びアクティブ・ラーニングを中心に）を踏まえた、最終年度の AP 事業について
- ◆ 参加人数 教員 10 名
- ◆ 発表者 大関智史（AP アセスメントオフィサー）

FD 研修会の内容

この FD 研修会では、文部科学省が進める教育改革とそれに沿った本学 AP 事業の目的を紹介し、これまでの進捗状況を発表した。また、本学の取組に対する日本学術振興会からの最新のフォローアップの結果を国際教養学部教員と共有した。更に、学生が実際に作成したページを交えながら、本学での e ポートフォリオ活用の全体像、そして来年度より導入予定の新たな e ポートフォリオの機能を紹介した。最後に、本学での AL のベスト・プラクティスを提示するために教育効果の高い AL の特定方法についての議論を実施した。教員が考える有効な AL について議論し、ベスト・プラクティスに対する理解を促進でき、更に、有効な AL を特定する方法及び効果的な AL の学内共有に関する有意義な議論をすることができた。



3. テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）への取組

- ① CT能力の育成に焦点を当てたALに関するFD研修会
- ② AL事例集の作成
- ③ AL事例の学内共有のためのホームページの立ち上げ
- ④ AL調査の拡張：教育学部での調査

①CT能力の育成に焦点を当てたALに関するFD研修会

- ◆ 日時：6月21日（木） 参加者：国際教養学部教員16名
- ◆ タイトル：「ALでのCT能力の育成」
- ◆ 目的：CT能力の育成を目的としたALの具体的な教育活動について議論するため



◆ 内容と結果：

FD研修会は、ALとCTの関連性に関する全体説明から始まり、その後は、小グループによるワークショップ形式で、CTを育成するALの手法について議論した。まず、全体説明として、本学の「哲学入門」及び「自然/生命科学」の授業内でのALの実践例を用いて、ALを用いたCTの育成方法について議論した。参加者は、提示された実践例で使用されているALが、どのALの手法で、どのようにCT能力を育成するかについて考える機会を得た。新しいALの手法ではなく、すでに授業で利用しているALで、CT能力は育成できることを教員は学び、その実践方法についての理解を深めることができた。

全体説明に続き、参加した教員が持ち寄ったALの実践例をCT能力育成の観点から分析するワークショップが行われた。教員は小グループに分かれて、各自が持ち寄ったALの手法をCT能力育成の観点から分析することで、教員のALの実践力の向上に役立った。

②AL 事例集の作成

- ◆ 目的：本学での AL の手法を学外に紹介する。また、学内で共有し、教員の AL の指導力を向上させる。
- ◆ 事例集の内容：AL 手法、育成する英語力及び CT 能力、手順、教員及び学生のコメント
- ◆ 掲載数：教員 4 名から計 7 事例



宮崎国際大学 (初版：2019年3月31日発行)

**アクティブ・ラーニング
事例集 (国際教養学部)**

太学教育再生加速プログラム
テーマ1・Ⅱ 複合型



01

アラン・シンプソン 先生

スコットランド出身のアラン・シンプソン先生。スコットランドで、電子電気工学の学主を勤め、その後、戦時中のテストシステムエンジニアとして5年勤務しました。それから企業ゲーム開発エンジニアとチャリティイベント・コーディネーターを務めてから、日本の民間の通訳学校、次に日本の大手エンジニアリング会社で、英語の教師とトレーナーを務めました。英語教師としての経験を活かし、ビジネス英語に強い興味があり、研究しています。

実践例 1

アクティビティタイトル

グローバルフードシステムに勝てるか？

コース名
世界市民入門
この活動に最適な人数
30人
所要時間
90分
必要なもの
ハサミ、ペン、鉛筆、教材ビデオ

ALの手法

分類3：熟考する時間、アクティブ・リスニング
分類4：(インタラクティブ) グループワーク
分類5：実地研修やシミュレーション

目標とするCT能力

①重要な情報の特定
②情報の分類化
③多面的思考
④情報の活用

目標とする英語スキル

Speaking Listening Reading Writing Vocabulary

学修成果

1. 学生は利益追求や協力し合うことを学び、チームワークや戦略の問題に取り組めるようになる。
2. 学生は強力なコミュニケーションとリーダーシップの資質を伸ばすことができる。
3. 学生はグローバルフードシステムに関する知識を習得できる。
4. 学生は実世界の問題に取り組むクリティカル・シンキング能力が育成できる。

- 8 -

授業手順

- 01 学生は職業家、トレーナー、会社員などのグループに分けられる。各グループに異なる量の教材 (新聞、ペン、はさみ、鉛筆、袋) を与える。
- 02 学生は世界のフードシステムシミュレーションゲームの説明動画を見る (教員の説明つき)。
- 03 各グループは各自の利益を最大化するための戦略を検討する。例えば、利益の最大化のために重視すべき事はコーンやコーヒの生産なのか、販売と取引活動なのか等を検討する。
- 04 シーズンの始めに、学生は分け与えられた作物の種 (コーンやコーヒ) に色を付け、季節の成長 (グループごとに異なる) をカットし作物の成長と収穫をシミュレートする。その後、作物を売って利益を出し、そうすることで利益を返すことができる。
- 05 学生は政府による土地収買、平ばつ、資源の喪失、企業経営による利用手段の転換といった現実的要素を伝えるニュース動画を見る。こうした動画は価格や資源を変化させ、各グループにさまざまな影響を与える可能性がある。
- 06 4つのシーズンが終わってから、学生は自分たちの成功度、それがなぜ、どのようにグローバルフードシステムと関連するのかを話し合う。

アクティビティの分析レポート

教員のコメント

クラス全体で「Simulation Activity (シミュレーション・アクティビティ)」をする理由は、経験を積んで理解し、環境に応じて、環境に自分たちの行動を調整し、その行動を評価し改善する経験を学ぶことです。また、環境で不確実な状況の中で、目標と目的の明確化を求め積極的に取り組む必要があり、これは学生が直面するべき重要なスキルです。

学生は Active Listening Skills (アクティブリスニングスキル) を使って、更新されたニュースを見て、私や他の学生たちと一緒にその意味を理解しなければなりません。新しい情報が出てきても、既知の知識や経験が補助になり、真実の速度も遅く、遅すぎることはなかったです。また、たとえば政府の学生が農場地を確保するといった状況がなかったです。たまたま、私がそれを分りやすく説明してサポートしました。Interactive Group Work (インタラクティブ・グループワーク) により、学生自身がチーム内で効果的に作業する際、教材の生産、買い付け、売り取り、交渉、他のチームとの協力などの能力のやり取りを決めるという重要な経験をもちました。学生たちは、シミュレーションの始め、途中、終わりに、思考することが要求されました。

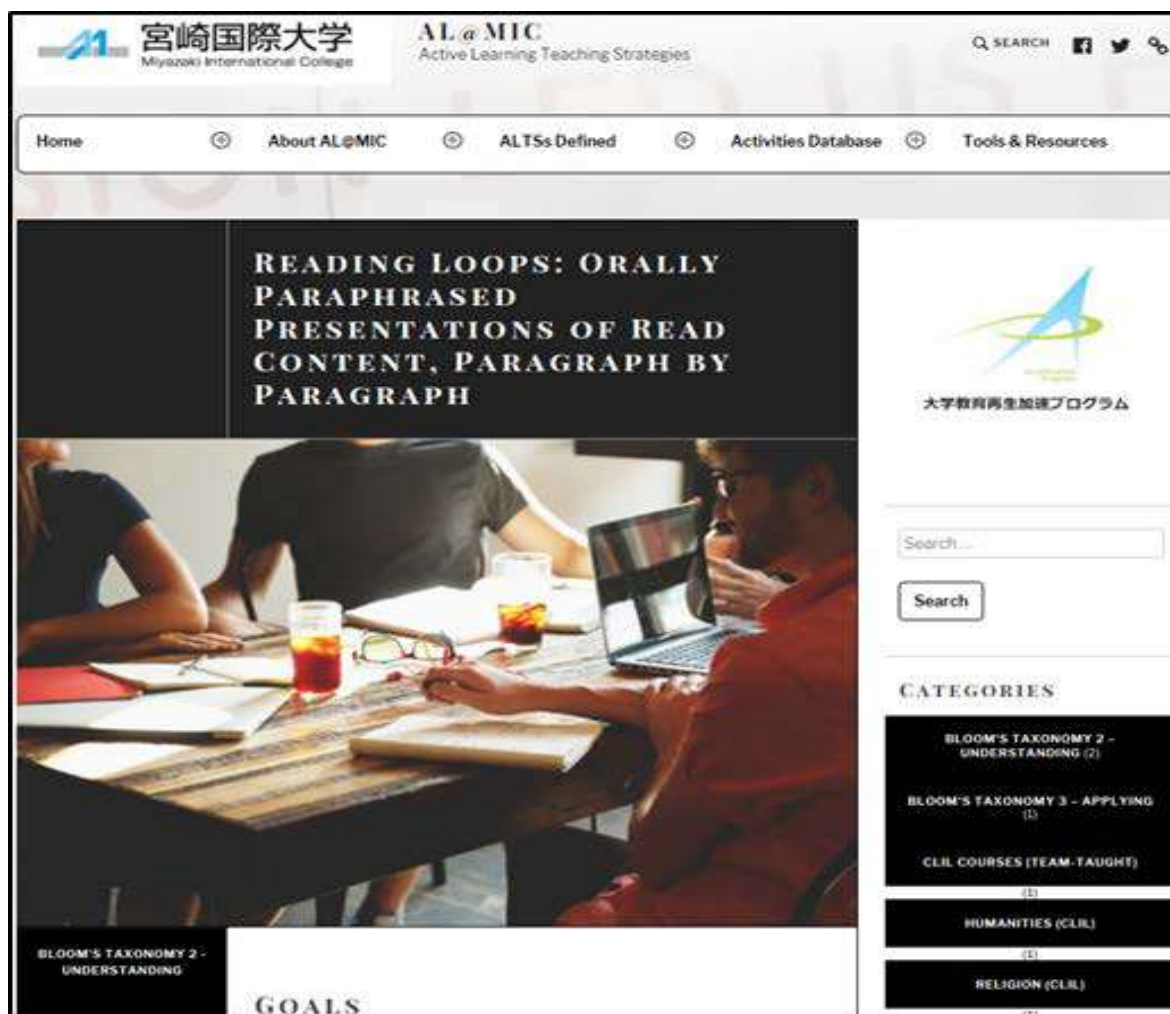
スタート時点では Critical Thinking Skills (クリティカル・シンキング・スキル) を使って各自の意思を決定し、ゲームの進行状況に結果を修正することによって行いました。しかし、学生たちは実際にゲームが動くにつれて、各ゲームに平等のチャンスが与えられていないことに気付きました。農業は季節はトレーナーや会社員や役員と同じくらい成功や資金を得たに比べて、はるかに不利な状況に置かれました。ゲームが終わったときに、グローバルフードマーケットが年々増え、経済的に置かれているという認識を得たことが、主な学習成果だったと思います。別の学習成果としては、農家の交渉や伝達、継続性、決定、継続を調整して受け入れなければならなかったことです。継続的な意思が多い状況で受け入れなければならないという状況に陥る環境の中で重要な活動でした。しかし、この問題は賢くしてコミュニケーションを促される環境でもあったので、例え間違っても、すべてことに集中しながら、新しく農業にスキルを磨くことができました。

学生のコメント

この授業では、農家、会社員、企業などの世界に分かれて、教室で様々な職業体験をすることで、グローバル社会のシステムが仕組みを学びました。先生の最初の説明で作業内容は分かったのですが、どのような役割が担っているのか手探りでもありませんでした。始めのうちは、自分の仕事の他の職業家のように関係するの、外的環境によってもどのような影響を受けるのか、そして、それに対してどのように対応すれば良いのかわかりませんでしたが、次第に自分の立場、相手の立場を考えた作業をするようになり、農家のディスカッションでは各農家の意思を話し合うことで、グローバル社会における相互関係の理解を深めることができました。先生が先に農業の目的を詳しく説明しなかったから、この授業は面白く、自分で考えて実行することが求められたと思います。農家の観点では、農家の利益を最大化して経済的に成功を収め、年々自分の立場を強化することで、リスニングが上手になりました。また、私は世界のグローバルなつながり、他のグループと頻りにコミュニケーションをとることも楽しかったので、スピーキングも上がったと思います。クリティカル・シンキングの観点では、自分の考えのメリット・デメリットを比較検討して、状況を優先的に、最適な結果を導き出す経験になりました。実社会に当たるときに役立つと思います。

③AL 事例の学内共有のためのホームページの立ち上げ

- ◆ 目的：効率的に学内で AL の事例を共有し、教員の AL の指導力を向上させる。
- ◆ 事例数：9 例



④AL 調査の拡張：教育学部での調査

- ◆ 目的：教育学部での AL を伴う指導法の使用状況を把握するため
- ◆ 対象：教育学部の専任教員
- ◆ 調査方法：2018 年の授業を対象として、AL 実態調査アンケートを教育学部の教員に送付
- ◆ 結果：昨年度までは、国際教養学部での AL 指導法の実態を把握するためのアンケートを実施したが、今年度は、教育学部でも同様のアンケートを実施し、大学全体での AL の活用状況の実態を把握することができた。また、アンケート調査の分析を教育学部の教員と共有することで、教育学部の教員は自分の AL の手法及び学部全体での AL 使用状況を知ることができ、教員は学生の主体的な学修に繋がるような AL の指導事例を考える良い機会となった。

教育学部アクティブ・ラーニング調査（2018 年度前期）

1. 調査概要

- ① 目的：教育学部における 2018 年前期の AL を伴う指導法の使用状況を把握するため
- ② 対象：教育学部の専任教員
- ③ 有効回答：合計 9 名（講義 17 科目、演習 27 科目）
- ④ 質問事項：AL の授業活動の利用頻度
選択肢：該当なし、使わない、時々使う、よく使う、非常によく使う

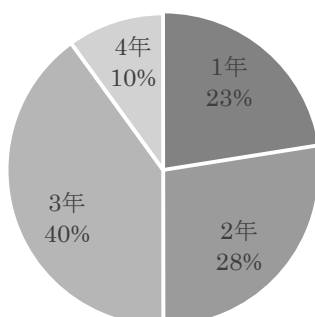
2. 調査内容

- ① 使用頻度を調査した AL のリスト

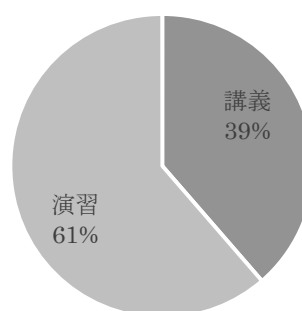
授業内	①グループワーク
	②ディベート
	③フィールドワーク
	④プレゼンテーション
	⑤ロールプレイ
	⑥模擬授業・模擬保育
	⑦実験
	⑧小テスト
	⑨質疑応答
授業外	①課題（レポート以外）
	②個別レポート
	③グループレポート

- ② 授業の属性（44 授業中）

授業の学年の内訳



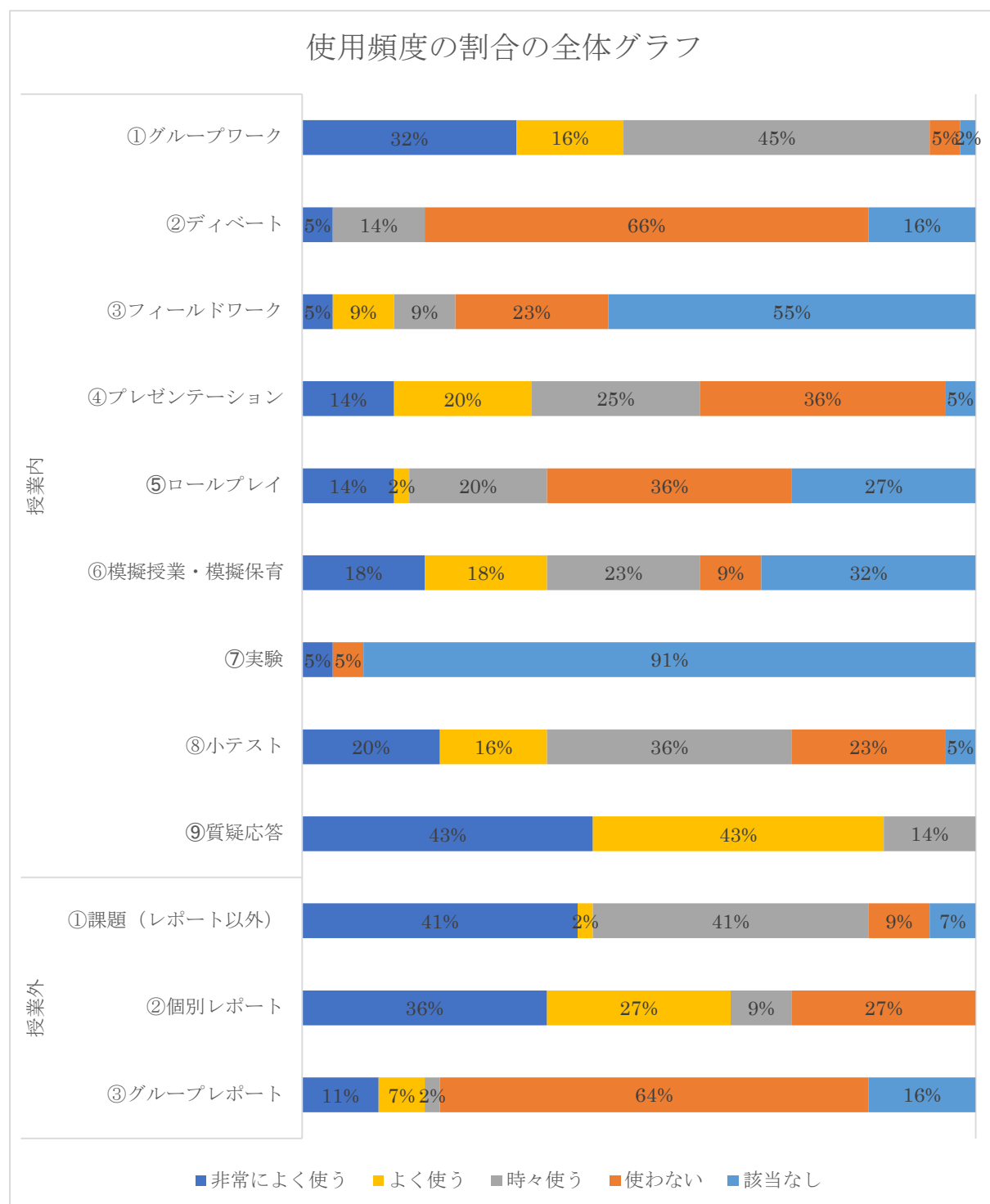
授業の形態



3. 調査結果

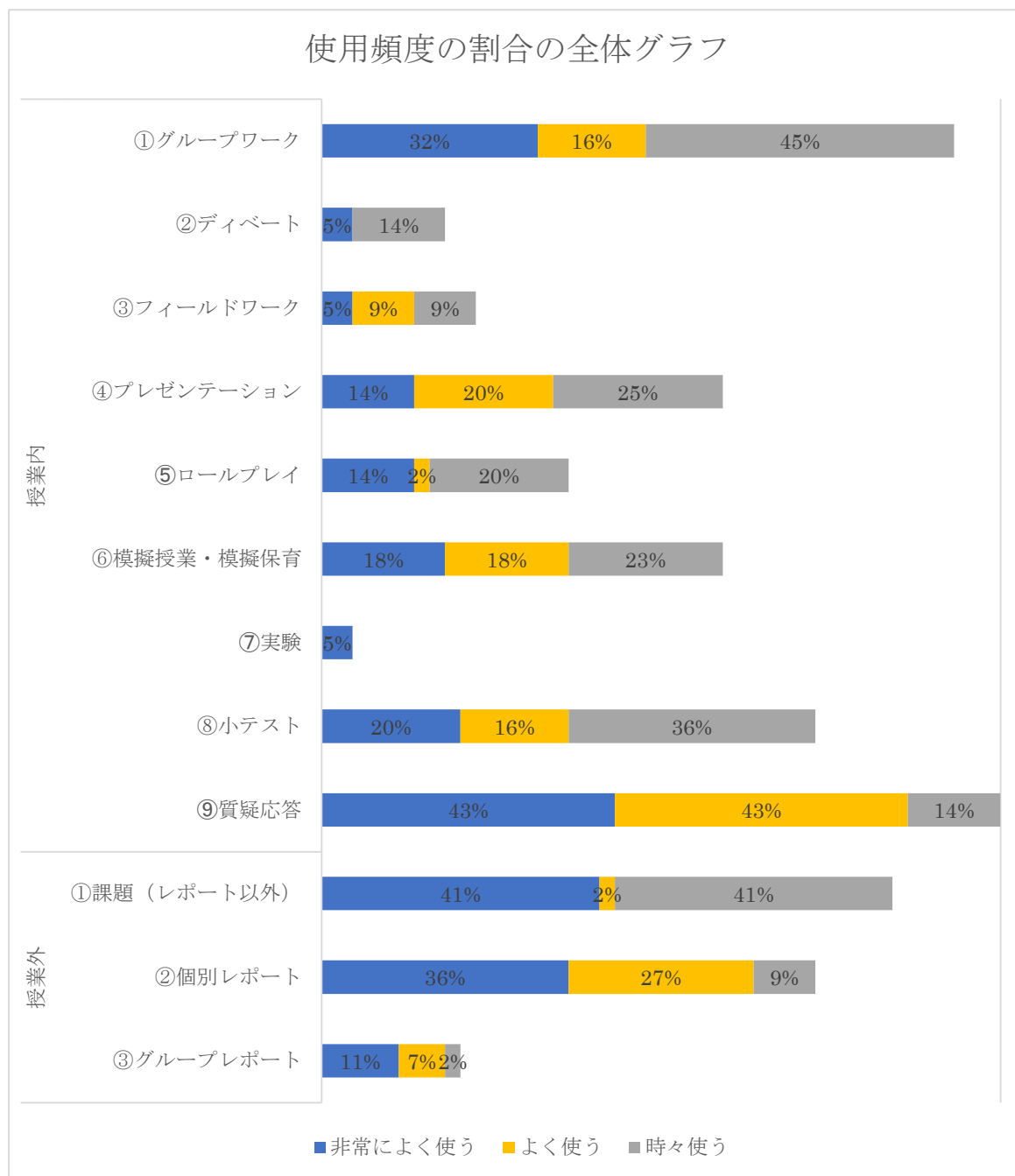
① 全体的な使用頻度のグラフ

すべての回答を含んだグラフは以下となる。％は回答を得た 44 の授業数を母数とした授業の割合である。



② 使用されているALのグラフ

使用されているALの全体像を添えるために、「該当なし」「使用しない」という回答を除き、「非常によく使う」、「よく使う」「時々使う」の3つの回答のみを含んだグラフが以下となる。全体的に、使用されている授業内のALの活動は「①グループワーク」、「⑧小テスト」、「⑨質疑応答」である。また、「④プレゼンテーション」や「⑥模擬授業・模擬保育」も比較的高い頻度で使用されていることがわかった。「⑦実験」は理科の授業のみで使用された。授業外では、「①レポート以外の課題」や「②個別レポート」は頻繁に使用されている。「③グループレポート」はあまり使用されていないことがわかった。



③ 特に使用頻度の高いAL（「よく使う」「非常によく使う」）

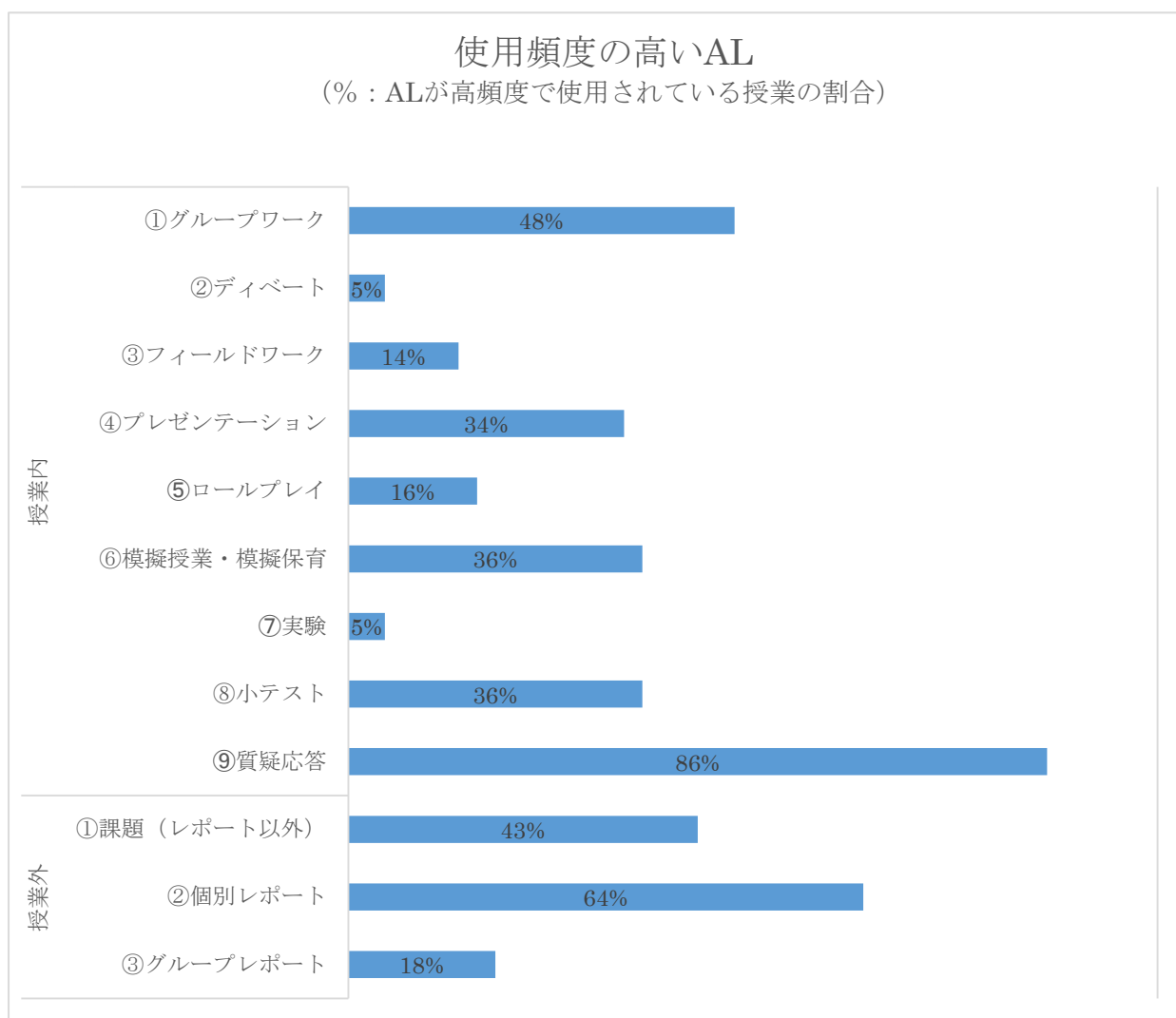
特に頻繁に使用されているALを特定するため、（該当なし、使用しない、時々使う、よく使う、非常によく使う）の回答のうち、「よく使う」、「非常によく使う」を「使用頻度の高いグループ」とした。

高頻度の授業内のAL

- ◆ 質疑応答（86%の授業で高頻度で活用されている）
- ◆ グループワーク（48%）
- ◆ 小テスト及び模擬授業・模擬保育（36%）
- ◆ プレゼンテーション（34%）

高頻度授業外のAL

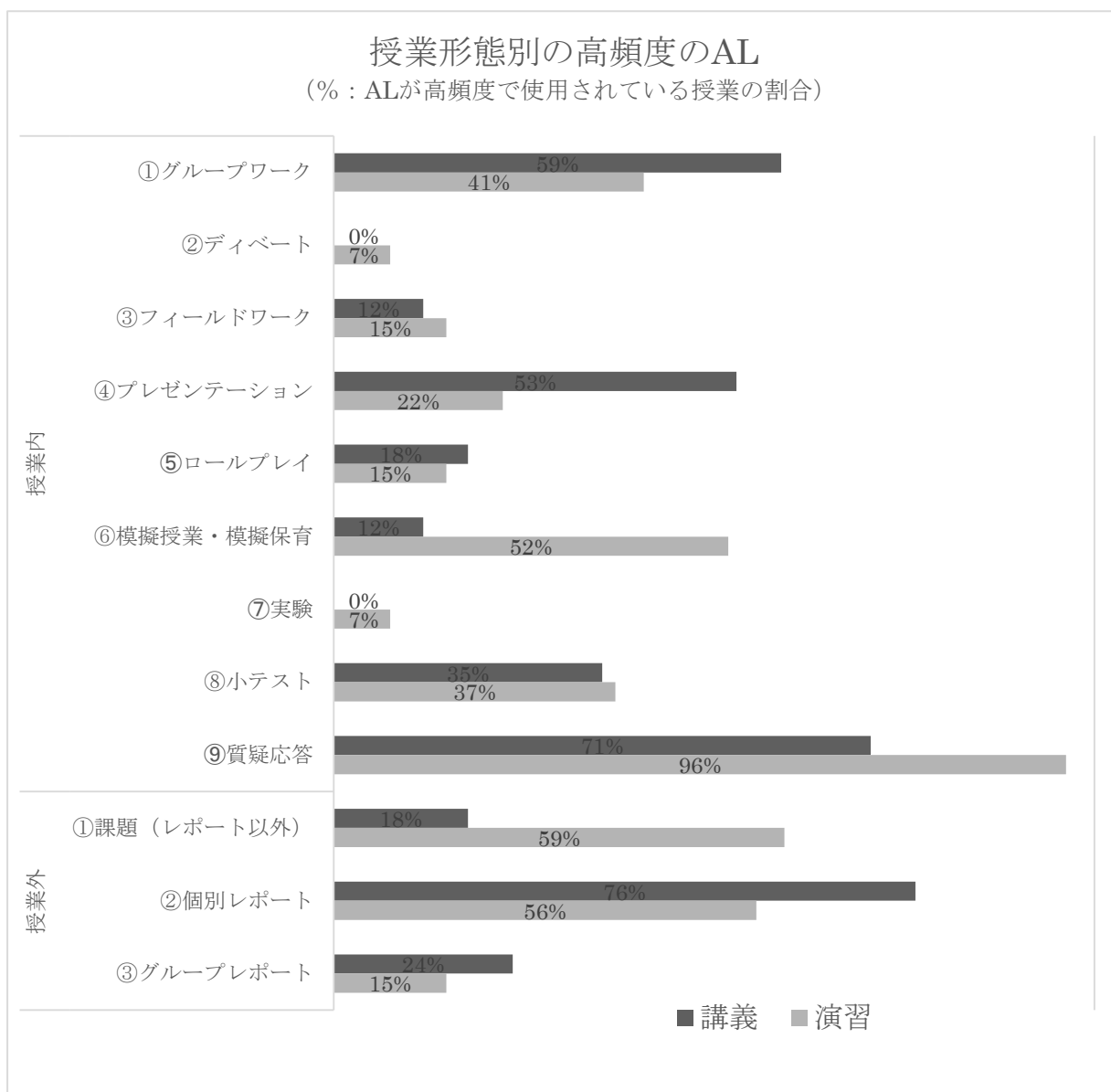
- ◆ 個別レポート（64%）
- ◆ レポート以外の課題（43%）



④ 授業形態での使用頻度の相違

授業形態（講義/演習）別に高頻度で活用（「よく使う」もしくは「非常によく使う」）されているALのグラフは以下となる。

- ◆ グループワークは演習でも高頻度で利用されるが、講義の授業でも多く取り入れられている。
- ◆ プレゼンテーションも講義の授業でより多く取り入れられている。
- ◆ 小テストは、講義の授業のみならず演習でも比較的多く使用されている。
- ◆ 質疑応答は、講義の授業でも頻繁に使用されている。
- ◆ 講義、演習の授業共に、個別のレポートは非常によく使用されている。
- ◆ レポート以外の課題は、演習の授業でより高頻度で取り入れられている。

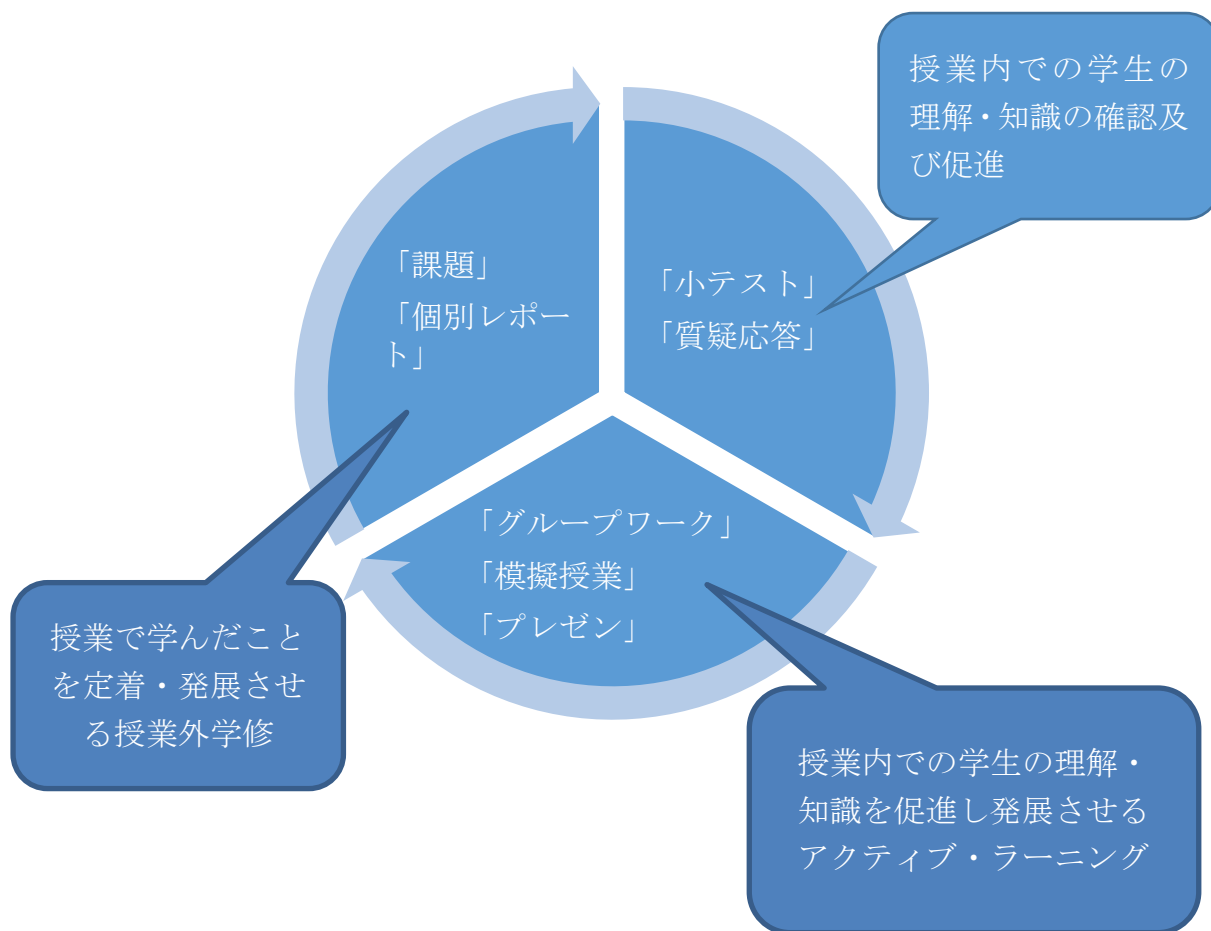


⑤ まとめ

今回の調査から、教育学部において、高頻度で様々なアクティブ・ラーニングが取り入れられた授業が展開されていることがわかった。授業内のALの活動は「①グループワーク」、「⑧小テスト」、「⑨質疑応答」が高頻度で使用され、「④プレゼンテーション」や「⑥模擬授業・模擬保育」も比較的高い頻度で使用されている。また、授業外のALでは、「①レポート以外の課題」や「②個別レポート」は頻繁に使用されている。

また、演習形式の授業のみならず、講義形式の授業においても、ALが高頻度で取り入れられていることがわかった。これは、講義の授業でも一方通行の授業ではないということを実証のひとつであろう。授業内では、グループワークやプレゼンテーションがほぼ半数の授業で頻繁に使用されているし、授業外でも個別のレポートが頻繁に使われている。また、頻繁に実施する小テストや質疑応答により、授業内で学生の理解・知識を確認することも着実にっており、理解・知識に基づいたアクティブ・ラーニングが実施されていると言えるだろう。更に、授業内での学修を定着させ、発展させるための個別レポートも高頻度で使用されているので、学びの好循環が確立していることが伺える。

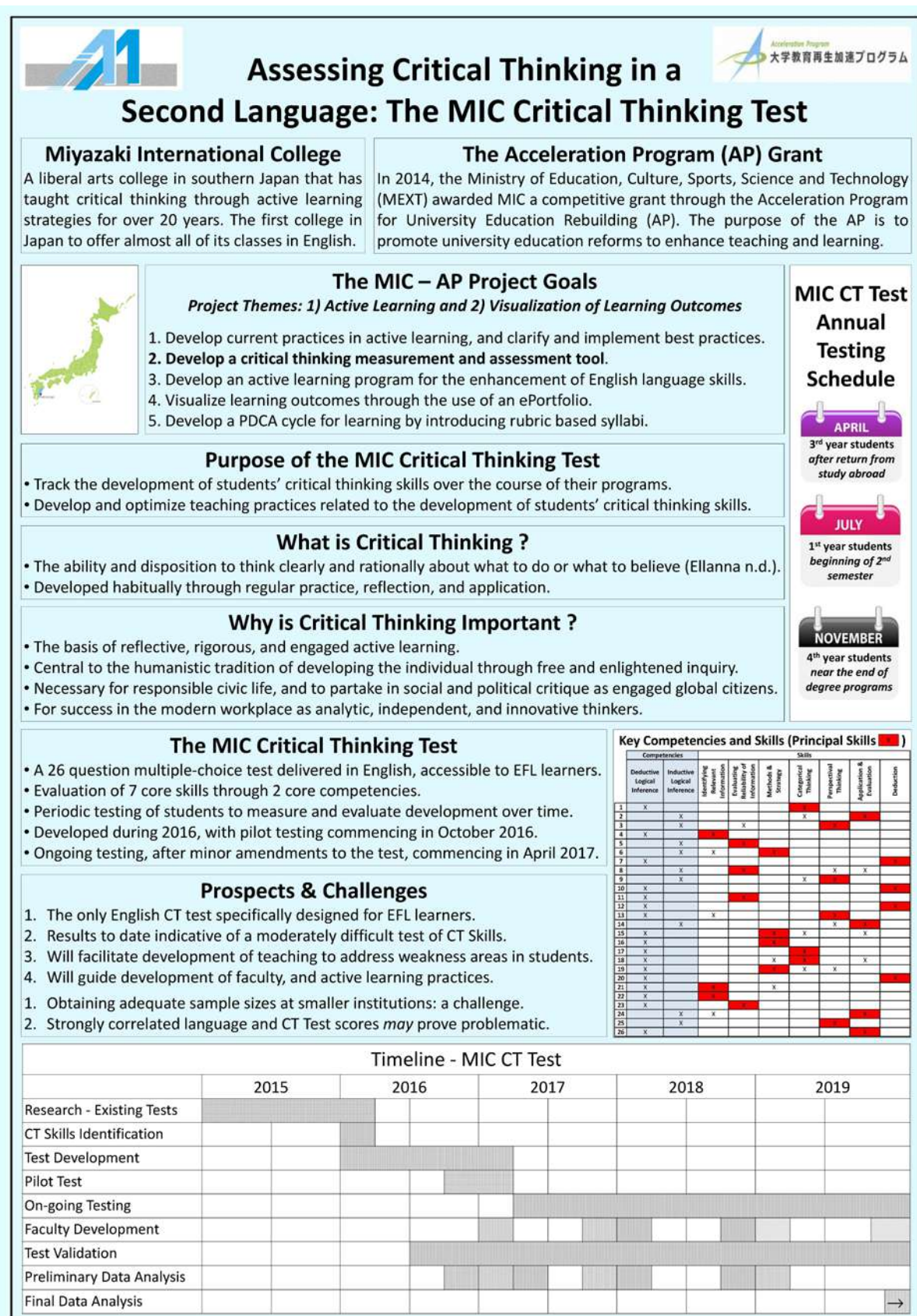
データから見る教育学部の「理解・知識に基づいたAL」を伴う「学修の好循環」



4. テーマⅡ（学修成果の可視化）への取組

- ① クリティカル・シンキングへの取組
- ② DP の 40 項目に対する自己評価及び各授業へのマッピング
- ③ e ポートフォリオ活用の推進

	①クリティカル・シンキングへの取組
5・7・11 月	CT テストの実施 5 月：国際教養学部 3 年 43 名 7 月：国際教養学部 1 年 45 名 11 月：国際教養学部 4 年 17 名 これまで通り今年度も、学生に CT テストを実施し、テストに関するデータを蓄積することができた。テスト結果を分析し、学生の CT 能力の伸長の度合いや不足している能力などを把握することで、テストの開発を進めることができた。テスト完成により、CT 能力を可視化できるので、学生の CT 能力を的確に把握し、その能力を伸ばす教育の実施が可能となる。
6 月	CT 能力を育成する AL に関する FD 研修会の実施（詳細はテーマⅠへの取組を参照）
10 月	「The Asian Conference on Education（教育に関するアジア学会）」での CT テストについてのポスター発表 この国際学会に、世界 20 以上の国からの参加があり、学会の 3 日間を通して 300 以上もの発表がある中で、本学の発表には多くの参加者が立ち寄り、本学が開発している CT テストへの多くの関心を集めることができた。参加者のフィードバックには称賛の声もあり、概ね良好な意見を頂くことができ、本学の CT テストを広く公表するという主な目的を達成することができた。 
12～3 月	CT テストの外部評価を委託（CT や第二言語の専門家にテストの評価を依頼）



Timeline - MIC CT Test

	2015	2016	2017	2018	2019
Research - Existing Tests					
CT Skills Identification					
Test Development					
Pilot Test					
On-going Testing					
Faculty Development					
Test Validation					
Preliminary Data Analysis					
Final Data Analysis					→

	②DP の 40 項目に対する自己評価及び各授業へのマッピング
4 月、 2 月	DP の 40 項目に対する学生の自己評価の実施 4 月：国際教養学部新 1 年 83 名 国際教養学部の DP ルーブリックに関するオリエンテーションを実施し、新入生は、本学での 4 年間の学修において達成する能力や資質を確認することができた。また、新入生は DP ルーブリックを使用し、入学時点での能力を自己評価した。DP で示された教育目標に対する現在の状況及び目標となる能力を確認し、今後の本学の 4 年間の学修において、DP の達成に向けた学修を促すことができた。 2 月：国際教養学部 1 生 81 名 国際教養学部 2 年 20 名 国際教養学部 3 年 46 名 国際教養学部 4 年 31 名
7 月	- FD 研修会「ルーブリックを使用した DP の教育目標の可視化」 - 参加者：国際教養学部教員 17 名 - 内容：本 FD 研修会では、本学の DP ルーブリックの開発をしているワーキンググループが、国際教養学部の DP に関連した学修成果の達成度を測定する「40 の評価項目」の概要を説明し、教員の DP ルーブリックに対する知識が深まった。更に、3 月に、国際教養学部の新入生が実施した自己評価の初期データ、及び今後の予定について議論した。本 FD 研修会を通じて、DP を達成するための 40 の評価項目を教員に周知することができた他、その項目で示された能力育成の観点からの授業展開を議論することができた。本 FD 研修会により、本学での教育を通じた DP の達成に向けた取組を推進することができ、DP の能力育成に向けた学生への教育効果が期待される。 
9 月、 2 月	各授業で育成する 40 項目を特定するための教員調査を実施した。 (40 項目を利用したカリキュラムマップの作成)
2～3 月	作成した 40 項目のカリキュラムマップを基に、成績評価からの DP の 40 項目の評価を割り出すシステムの開発を開始した。

	③e ポートフォリオ活用の推進
4 月	タブレットオリエンテーションの実施 アクティブ・ラーニングのために AP 事業で購入したタブレット PC の操作説明をする目的で実施され、国際教養学部の学生 61 名、及び教育学部の学生 29 名にタブレット PC を貸し出した。 
6 月	海外国内及び研修での e ポートフォリオ活用にするオリエンテーションの実施 参加：国際教養学部 2 年 60 名 →ページ提出 63 名 

7 月	学生の日々の英語力の振り返り、目標設定、そして目標達成のためにすることを書き込む「英語スキル」ページに関するオリエンテーションの実施 参加：国際教養学部 1 年 83 名 → ページ提出 81 名 
1 月	1 年生での学修をまとめる「学年末ページ」のオリエンテーションの実施 参加：国際教養学部 1 年 84 名 → ページ提出 65 名 
8 月 ～ 3 月	新しいシステム・ページの開発 ・ フロントページ、3・4 年生のページ、DP の振り返りのページ ・ 授業外学修時間プラグインの導入

e ポートフォリオの例 ①1年次のまとめページ

- ◆ 学修成果の掲示（授業での課題）
- ◆ 1年次の学修の振り返り
- ◆ 来年度の目標、将来の目標の再確認

ILA 1st Year -

1. Reflective Writing

1. 今年の一年の間で、文学、人類学、社会学など、今まで学ぼうと思っていなかった科目を学ぶことができた。これらの経験を通して、物事を一つの視点からではなく様々な視点から見られるようになった。特にリベラルアーツの授業でその力をつけることができたと思う。
2. 今年1年休むことなくすべての授業に出席することができた。授業中もわからない言葉は辞書で調べたりして、ほかの子から後れを取らないようにしっかり取り組めたと思う。しかし、自分の思った結果を出せなくて後悔した科目もあるので、来年度は後悔をしないように全科目同等に勉強したい。
3. 来年は留学もあるので、自分から積極的に英語で話しかけることを目標にしたい。また、留学後にTOEICで200点あげることが目標になります。留学を経験することで自分の視野も広がると思うので、就活のこともし少しずつ考えていきたい。

1. During the year of the year, I was able to learn literature, anthropology, sociology and other subjects I had not thought about them until now. Through these experiences, things have come to be seen from various perspectives, not from a single point of view. Especially I think that I was able to put the power in the class of liberal arts.
2. I was able to attend all the classes without taking a break this year. I think that I tried to work hard to avoid losing from other children by looking up the words I do not understand in the class in the dictionary. However, because I have regretted subjects that I regret not being able to produce the results I thought, I would like to study all subjects equally, so that I do not regret next year.
3. Since I am going to study abroad next year, I would like to aim to positively talk to him in English. In addition, I will aim to give 200 points by TOEIC after I study abroad. I think that I will broaden my horizons by experiencing studying abroad so I want to think about my job hunting little by little.

2. Goals & Plans

1. 将来の夢は明確には決まっていますが、MICで習った経験や知識を生かせるような仕事がしたいです。そのほかにも私には目標にしていることがあります。それは英語を使って世界を旅することです。この目標を達成できるようにあと3年間という短い大学生活の中でしっかり英語を身に着けたいです。
2. 私は海外留学に行くという目標のために、今年度は自分の意見を持つことを意識しました。今まででは人の意見に流されてばかりだったので、少し成長できたと思っています。逆に今年度できなかったことは、課題以外の勉強です。何かを理由にして結局課題しかしないという生活を、気づいたら1年近く続けてきました。これは英語力をあげられるはずの機会を自分から逃していたということなので、春休みからこの生活を改善していきたいです。
3. 留学の前は、課題や授業のことだけでなく、語彙力をつけることと留学先のことを調べることに取り組みたいと思います。そして留学中は、英語力を上げることに加えてその国の文化や価値観などを学びたいと思います。また、留学後の3ヶ月間で、TOEICに向けての勉強をして次の学年に上がりたいです。

1. The future dreams are not clearly decided, but I would like to take advantage of the experience and knowledge I learned at MIC. Besides that, I have a goal. That is to travel the world using English. I'd like to wear English well in a short college life of 3 years to achieve this goal.
2. For the purpose of going abroad to study abroad, I was conscious of having my opinion this fiscal year. I felt that I was able to grow a bit because I was just dropped by people's opinions. On the contrary, what I could not do this year is studying other than assignment. After noticing something, I realized that life will only be a task after all. I have been doing it for almost a year. I mean that I missed the opportunity I should be able to improve my English skills, so I would like to improve this life from the spring vacation.
3. Before studying abroad, I would like to work not only on tasks and lessons, but also on studying vocabulary and study abroad. And while studying abroad, I would like to learn the culture and values of the country in addition to raising my English. In addition, I'd like to study for TOEIC and go to the next grade in 3 months after my study abroad.

3. Active Learning

1. 勉強ではないが、留学やワーキングホリデーに興味があって自主的に講演会に参加した。また、少しでも英語に慣れるために英語でハリーポッターの本を読んだり、洋画を見たりした。
2. 留学生活を有意義にするために、その土地の文化、気候、伝統、観光地などをあらかじめ調べたいと思う。また、自国のことも自信をもって話せるように調べておきたいと思う。

1. Although I was not studying, I was interested in study abroad and working holiday and voluntarily participated in lecture meetings. Also, I read Harry Potter's book in English and watched foreign movies to get used to English at all.

4-A. Mahara Page Link

Liberal Arts:

- Introduction to Liberal Arts:

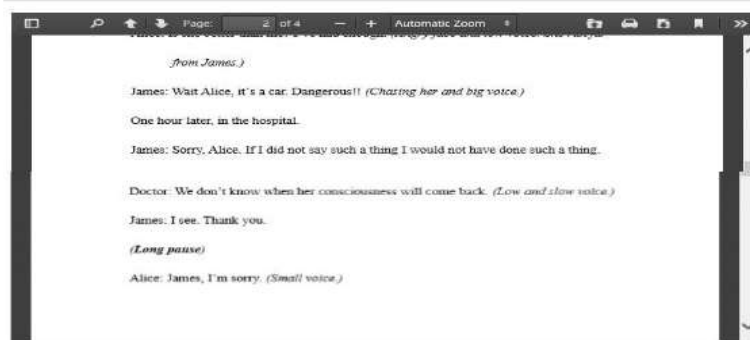
General Sciences:

- Introduction to ICT:

Other Courses

- AW2:

4-B. Humanities



Details

4-C. Social Sciences (Anthropology)



Details

e ポートフォリオの例 ②2年次海外（国内）研修ページ：海外研修のポートフォリオ

- ◆ 英語学習に関する記録：3750 Words (約 10 ページ)
- ◆ 留学先の地域や文化に関するエッセイ・レポート：7500 Words (約 20 ページ)
- ◆ 自由研究論文：3750 Words (約 10 ページ)


Show default (English) | Change | Login

Area Studies : (7500 Words)

The Homosexual (426 Words)



There is a country where even Japanese people can marry formally as a same-sex couple. It is Canada. Ten years has passed since same-sex marriage was legalized in the whole land of Canada. Canada was the fourth country in the world to accept same-sex marriage. It is said that Canada is understanding and kind of homosexual.

Many same-sex couples from all over the world where same-sex marriage was not allowed, including the United States, visited Canada and held a wedding ceremony in those days. This is because in Canada, people believe Canadian can marry regardless of being a man or a woman.

It is said that same-sex marriage is accepted in Canada rather than Japan. Therefore, it is said that there is still the sense of discrimination. Vancouver is the city that is very kind and friendly to gays. The gay pride parade is held every year and also Vancouver is the city where it is famous for opposition to discrimination. My friend and her family who live in Vancouver took part in the parade and even collected clothes and made up. It is said that they were enjoyed the parade and they thought about homosexuality again. A purpose of this report is to respect various nationalities, races, and cultures who live in Vancouver as well as homosexuals. In addition, it is also about helping each other at the university and cooperating with people. We can work people who wear heavy clothes and make up in the parade. People who are not homosexual participate in the parade. According to Japanese, it is slightly mysterious, but the parade is a good opportunity because we can understand that there are no homosexual discrimination in Canada from the parade. These days, it is taken up about sexual minorities and homosexuality in the Japanese TV program, animation, and media. Homosexuality is seemed to be accepted and accepted in Japan. But it is nothing of the kind. In Japan, there seems to be more cases that homosexuals hide their sexual orientation and get a general office work. On the other hand, there are many people who are homosexual as well as people who speak different languages and are different races. Therefore, we can understand that people in Canada put more emphasis on individuality regardless of country, age, race, religion, language and sexual orientation.

I think it is important to respect each other regardless of various culture, religion, color of skin as much as homosexual. It is natural in Canada, so homosexual people tend to go to Canada to live.

Personality of Canadians (435 Words)



When I approached Canada, I found about characteristics of Canadians. Furthermore, I can find a lot of good points that are uncommon for Japanese. It seems that people in Canada tend to say their opinion directly and people are assertive.

At first, seen from a Japanese perspective, they do not have a sense of reserve or hesitation, so people in Canada express their feeling directly. People in Canada make clear their true intention and what they say in public and clarify their opinion like their favorites and not so favorite ones. On the other hand, people in Japan don't say yes or no clearly. Also people in Japan have a character such as reading the atmosphere of a place and have a tendency to agree themselves with the opinions of those around. People sometimes endure that they want to say, or discuss their emotion and endure a thing that they want. Words about the Japanese way of thinking, I think it is important for Japanese and think so these tendencies, people made up well, but sometimes they need say their opinion clearly like Canadians.

Second, everyone who came to Canada unanimously say that Canadians are friendly and kind. Canada is a worthy country for immigrants, people in Canada accept anyone comfortably. When I go anywhere like university, various people willingly talk to me with a smile. Also they are so kind to people if they are not good at speaking English. There are few gaps between senior and junior by the age and even bosses and employees in a company call each other by their first name. It is a culture that is cheerful and peaceful like all of people are friends, while people in Japan don't willingly use no dangers and the relationship between superior and inferior is very strict. In addition, Canada is a country soldiers of different cultures and various racial people gather in Canada from all over the world. I was surprised that I met people from various races, people especially when I just walk the town. Because there is little racial discrimination in Canada and Canadian are tolerant towards different cultures, it will be safe that foreigners feel out of place. Japanese people are even asked by Canadians how to get to somewhere sometimes.

It is important to be proud of our culture work, but it is not good to know it as other people. It is not that which is correct, or which is good. I think the best thing is to respect the opinion of partner and have an attitude to try to understand their opinion and personality.

The Differences in Houses and habit (700 Words)



There are many differences in house features between Canada and Japan. After I came to Canada, I was really surprised about house features and habit in Canada. It is quite different from Japan, but it also has old history of houses like Japan.

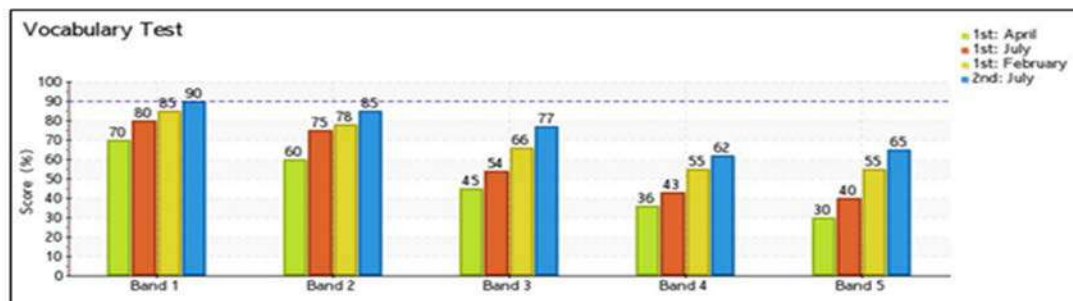
Remembrance Day (433 Words)



Today is November 11th, which is the Canadian Remembrance Day. Remembrance Day is the anniversary of the official end of World War I on November 11, 1918. It is a national holiday. Many people stand and were injured during this war.

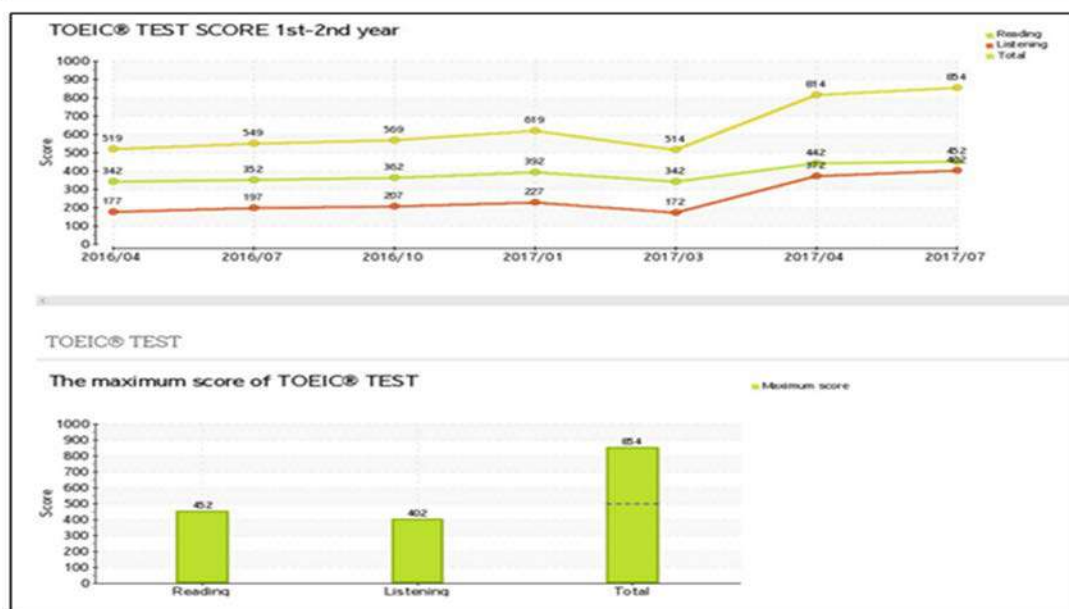
e ポートフォリオの例 ③英語力ページ：振り返り

- ◆ 今回の TOEIC (RL)結果をどうみているか？
- ◆ 次回の目標得点は？
- ◆ 点数を上げるために今後することとは？



上図の語彙力テストの結果に対する振り返り及び目標設定をするスペース。

In this space, students can reflect on their scores and set goals.

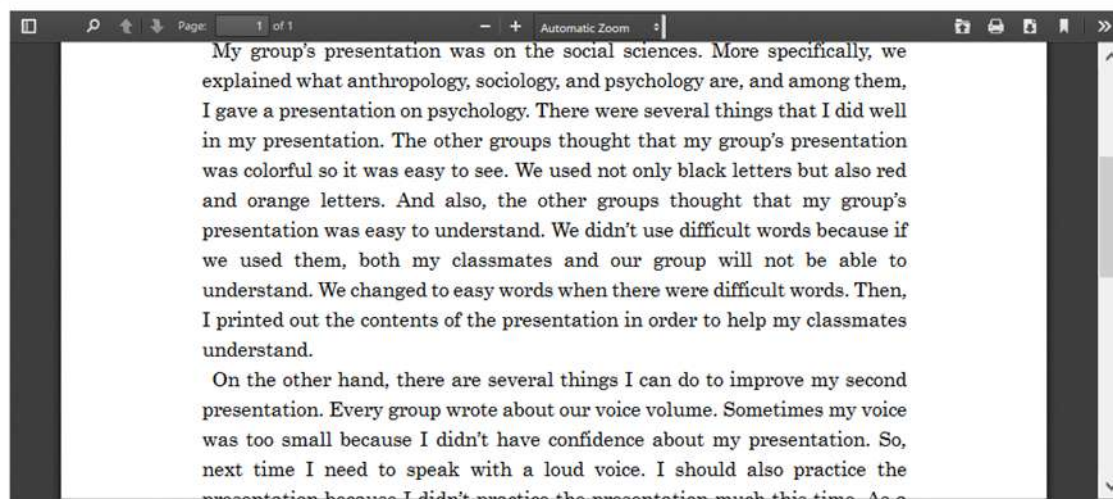


上図の TOEIC の結果に対する振り返り及び目標設定をするスペース。

In this space, students can reflect on their scores and set goals.

LIB101 Introduction to Liberal Arts

PDF



Details

PDF



Details

PDF



Details

Text

- Good things:
 - use picture.
 - easy to see.
 - good information.
 - easy to understand.
 - The power point was colorful.
 - The information was clear.
 - Visual beautiful.

GSC 101 intro to ICT

intro to ICT

Questionnaire

Posted by Hanako Kodama on 19 July 2017, 1:24 AM

Last week, I made questionnaires about hair. Question 1 is that "Have you ever changed the color of your hair?". Question 2 is that "How often do you go to hair salon?". Question 3 is that "Do you use a drier?". Question 4 is that "Have you ever got a perm?". Last question is that "What are some reasons you change your hair color (or do not change)?". Next week, I will ask my friends these questions.

[Add comment](#)

Excel test

Posted by Hanako Kodama on 04 July 2017, 1:30 PM

I had an excel test last week. First, I saw an answer page with a computer. And then, I made two charts. I imitated the answer page. It took me a long time. The test was difficult for me.

[Add comment](#)

Excel

Posted by Hanako Kodama on 28 June 2017, 12:11 AM

Last week, I done excel. And then, I made four questions about cell phone. After that, I interviewed my classmates. My questions are "What kind of your phone?", "Do you install LINE?", and "Do you cover your cell phone?". I was surprised. Because everyone install LINE. And then, I made a chart with excel. Excel is difficult for me. However, it is useful.

[Add comment](#)

My typing speed

Posted by Hanako Kodama on 22 June 2017, 1:32 PM

My typing speed has increased rapidly from first time to second time. It is noticeably to see my typing speed improving. My peak of my typing speed is 44WPM. The speed between 12th time and 14th time is remained steady. My typing speed from 10th time to 18th time is gradually improving. My typing speed from 5th time to 6th time is decreasing.

[Add comment](#)

Interview

Posted by Hanako Kodama on 20 June 2017, 1:06 PM

Last week, I did type of Harry Potter. Gradually, the speed of my type is improving. It is exciting. After that I made a question. My question was "What is your blood type?". And then, I interviewed my classmate. The blood type of A and AB was the most popular. I was surprised!!

[Add comment](#)

Presentation

My typing speed



Unit 1 : Vocabulary

Student	Word	Part of Speech	Definition
-	assist	verb	to help somebody to do something
20171001	bar	noun	displays information about the website or program that you are using
20171002	bottom	noun	the lowest or deepest part of anything.
20171003	browser	noun	a program that lets you look at internet documents
20171004	button	noun	the user can click on or touch to choose an option.
20171005	capital letter	noun	a letter of the form and size that is used at the beginning of a sentence, a name
20171006	choose	verb	to decide which thing or person you want out of the ones that are available
			to choose a particular function or item on a computer screen, etc., by

Unit2 : Email

Situation 2 :

Subject : We can't go to today's party.

Hello, Anderson.

We are sorry, we can't go to tonight's party because we just remembered we have an important test tomorrow.

So, we have to study today.

Thank you.

Hanako Kodama

Page 1 / 1

Unit 3 : Typing



e ポートフォリオの例 ⑥3 年次及び 4 年次のページの開発

0. 3年次の就活・論文

by SO

Reflective Writing

3年次での振り返り

1. 3年次での勉強の振り返り（卒論が入る？）

就活もしくは教職

就活に関して書くこと

1. 現在、自分の考えている職種・社名など
2. 今年度、就活に向けてしたこと（インターンシップ、キャリアデザインでの授業も含む）
3. 来年度、就活に向けての目標

卒論に向けて

卒論に向けて

4年ですることのタイムラインを書く（例：4月〇〇する。7月〇〇する）

卒論ポスタープレゼンの練習

専攻科目からのPDF 1

Details

専攻科目からのPDF2

Dashboard

Content

Portfolio

Groups

0.4年の学修まとめ

by SO

Reflective Writing

4年間の振り返り

1. MICでの授業（リベラルアーツ）で、自分がどのように変化したか？ 卒業後に、どのように学んだことを生かすか？
2. 2年次の海外もしくは国内研修
3. 思い出に残ったイベント
4. 上で記述したことを基に、MICでの学びについて後輩へのメッセージ

就活もしくは教職

就活に関して書くこと

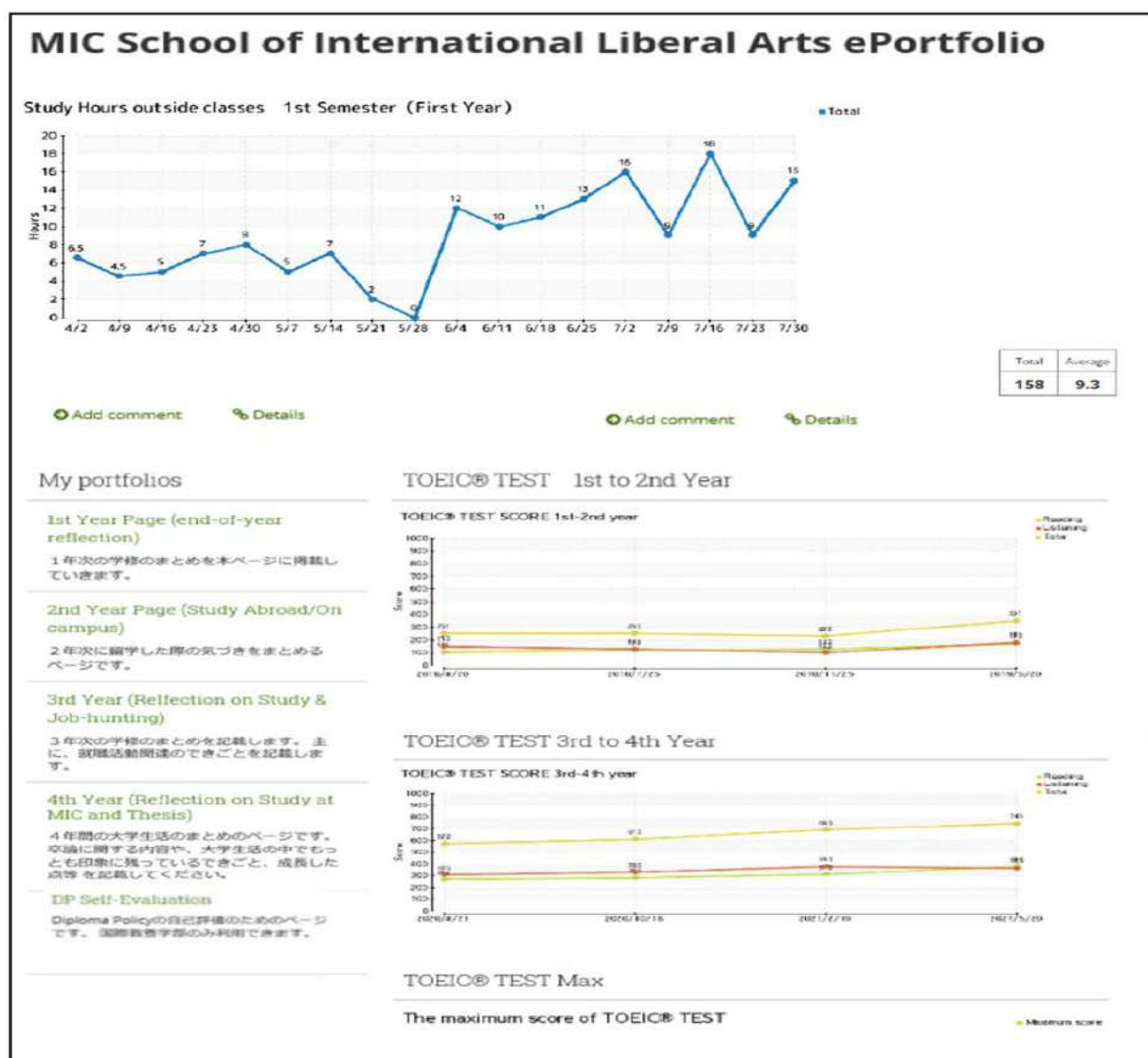
1. 就活や教職で取り組んだ全ての事を整理する。 例、3年7月〇〇した。4年4月〇〇した。
2. 取り組んだことを基に、後輩へのメッセージ

完成した論文のPDF

卒論関係の資料（ポスタ

eポートフォリオの例 ⑦フロントページ（2019年度の国際教養学部の新入生より適用）

- ◆ 1年次のまとめのページ
- ◆ 2年次留学ページ
- ◆ 3年次のまとめのページ
- ◆ 4年間の振り返りのページ
- ◆ 英語力のページ
- ◆ DP達成度評価のページ
- ◆ 授業外学修時間の管理



5. 高大接続への取組

高大接続への取組として、本学では、高校生を対象とした出前授業、キャンパスビジット、オープンキャンパス、リーダーシップ・プログラムなどの様々な取組を実施している。また、平成 29 年度には、宮崎県内の高校と高大接続連携協定を結び、積極的に高大接続に向けた取組を実施している。

今年度の実施結果

実施形態	内容	日時	参加者
来学	大学見学	6 月 7 日 (木) 10:50 - 12:50	宮崎県立飯野高等学校 参加者：100 名
派遣	宮崎南高校 GLOBAL ENGLISH LECTURE SERIES 講師：Alan Simpson, Rebecca Schmidt	6 月 7 日 (木) 13:50 - 14:45 14:55 - 15:50	Location：宮崎県立宮崎南高等学校 参加者：84 名
派遣	出前講座 講師：Lloyd Walker タイトル：Globalization and Cultural Difference	6 月 19 日 (火) 14:40 - 16:10	宮崎県立高千穂高等学校 参加者：20 名
来学	クラーク記念国際高校 ENGLISH DAY	6 月 26 日 (火) 10:30 - 14:30	クラーク記念国際高校 参加者：31 名
派遣	宮崎南高校 GLOBAL ENGLISH LECTURE SERIES 講師：Erik Bond, James Furse	7 月 5 日 (木) 13:50 - 14:45 14:55 - 15:50	Location：宮崎県立宮崎南高等学校 参加者：84 名
派遣	出前講座 講師：中原邦博	7 月 15 日 (土) 10:30 - 12:00	Location：宮崎県立日南高等学校 参加者：20 名
派遣	Global Session 1 講師：Lloyd Walker	7 月 19 日 (金) 9:00 - 16:00	Location：宮崎県立延岡星雲高等学校
来学	Global Session 2 講師：Lloyd Walker	7 月 24～26 日 (火～木) 9:00 - 16:00	Location：宮崎国際大学
派遣	宮崎南高校 GLOBAL ENGLISH LECTURE SERIES 講師：Cathrine Mork	9 月 27 日 (木) 13:50 - 14:45 14:55 - 15:50	Location：宮崎県立宮崎南高等学校 参加者：84 名
来学	宮崎南 ENGLISH DAY	10 月 19 日 (金) 10:30 - 12:00	宮崎県立宮崎南高等学校 参加者：80 名
来学	1 日体験入学	10 月 30 日 (火) 9:20 - 12:15	宮崎学園高校 参加者：78 名
派遣	宮崎南高校 GLOBAL ENGLISH LECTURE SERIES 講師：Atsushi Yasutomi, Anderson Passos	11 月 8 日 (木) 13:50 - 14:45 14:55 - 15:50	Location：宮崎県立宮崎南高等学校 参加者：84 名
来学	ENGLISH DAY	11 月 14 日 (火) 9:20 - 15:30	都城西高等学校 参加者：42 名
派遣	宮崎南高校 GLOBAL ENGLISH LECTURE SERIES 講師：Anderson Passos	12 月 6 日 (木) 13:50 - 14:45 14:55 - 15:50	Location：宮崎県立宮崎南高等学校 参加者：84 名
大学独自	HABATAKE グローバル・リーダーセミナー	1 月 4～6 日 (金～日)	青島青少年自然の家 参加者：34 名
来学	宮崎南 ENGLISH DAY	1 月 25 日 (金) 9:00 - 16:00	宮崎県立宮崎南高等学校 参加者：84 名

高大接続への取組の例

- ◆ タイトル：羽ばたけ！グローバル・リーダーセミナー2019
- ◆ 日時：平成31年1月4日～6日 青島青少年自然の家にて2泊3日の宿泊研修
- ◆ 参加者：高校1～3年生：34名
- ◆ 目的：本学が「英語でリベラル・アーツを学ぶ先駆的大学」として長年培ってきた教育資源を活用し、高校生を対象に、グローバル人材としての基礎力向上のため



セミナーは全て英語で行われ、グループワークを実施し、最終日は、参加者全員が学んだことに関するプレゼンテーションを英語で行った。

羽ばたけ！ グローバル・リーダーセミナー2019

高校生
対象

～求む！次世代のグローバル・リーダー～

1/4 FRI **START** 14:00 (13:30受付開始) ～ **6** SUN **FINISH** 14:30

1 リーダーシップ 2 コミュニケーション力 3 プレゼンテーション力 4 課題解決能力

これらの力を**英語**で磨きます。

セミナーでは、英語でディスカッションやプレゼンテーションを行います。

- 対 象** 宮崎県内高校生
- 応募資格** 英検準2級以上取得者
(もしくはこれに相当する資格)
- 定 員** 35名
- 参加費** 5,000円(受講料、資料代、宿泊費、食事代を含む)
※参加費は受付にて徴収いたします。
- 会 場** 青島青少年自然の家
宮崎市大字熊野字藤兵衛中洲
TEL:0985-58-1711
- 申込み方法** ウェブフォームまたは、お電話、
FAX(チラシ裏面利用)
TEL:0985-85-5931
FAX:0985-84-3396
- 申込み締切** 12月25日(火)



プログラム詳細は
裏面をご覧ください。



宮崎国際大学

国際教養学部 教育学部

〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地
TEL 0985-85-5931 FAX 0985-84-3396
E-mail Outreach@sky.miyazaki-mic.ac.jp
ホームページ http://www.mic.ac.jp/

入試広報部フリーダイヤル ☎0120-85-5931

ご予約はこちらから

ウェブフォーム
または裏面FAX
をご利用ください。



6. AP 事業への学生の参画

目的	本 AP 事業への取組を、学生の視点から効果的に享受し活用するための方策を考える。主体的学修を促進するための方法を、学生自身が検討し、学生レベルで AP 事業を普及させる。具体的な目的は、『本学の特色である AL を学生の視点から促進及び改善すること』で、主に以下の 2 点に取り組む。 ◆ 授業内の AL の改善：教員の実施する AL を学生の視点で改善する。 ◆ 授業外の AL の改善：e ポートフォリオの活用方法を学生の視点で改善する。
メンバー	国際教養学部 3 年：藤山 佳菜子（リーダー） 入佐 加寿真 宮本 啓太郎 国際教養学部 2 年：舩木 那奈美 
活動期間	平成 30 年 10 月 16 日～平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	① プログラムレベルでの主体的学修の促進 学生の視点での学修成果をまとめたポスターを作成した。 ② 授業レベルでの主体的学修の促進 学生の視点で AL 型の授業への取組方法をまとめた冊子を作成した。 ③ 学生レベルでの主体的学修の促進 e ポートフォリオ・オリエンテーションに参加し、後輩の指導をした。 ④ 授業外での主体的学修の促進 3 年生及び 4 年生のページなどの新しいページの開発及び、これまでに導入したページの改善案を提示した。

活動詳細 ①プログラムレベルでの主体的学修の促進

学生の視点から、本学の国際教養学部で主体的に学修する方法をまとめたポスターを作成した。このポスターにより、学生（主に新生）は、本学での4年間の学修を可視化し、プログラムレベルで主体的に学修するためにすべきことを知ることができる。

宮崎国際大学での主体的な学修の実現に向けて～学生の視点から主体性を考える～
AL改善学生グループ(国際教養学部): 藤山 佳菜子(リーダー) 入佐 加寿真 宮本 啓太郎 榎木 那奈美

1年次・少人数クラスでの英語によるAL授業
4年間の学修に必要な基礎力の構築を目指す(英語力・リベラルアーツ・ICTリテラシー)

2年次後期・海外研修
異文化の中で、自己のブラッシュアップ!

3・4年次・深い学び
学修をキャリアにつなげる

卒業

1年次の授業の特徴

①リベラルアーツ
例「リベラルアーツ入門」What is Liberal Arts?
1. Essential knowledge: 不変的な知識
2. Social Science, Humanities, Natural Science and ICT: 社会科学, 人文科学, 自然科学, およびICT
3. A non-professional curriculum: 非専門的カリキュラム

国際教養学部が推進するリベラルアーツ教育による様々な授業を通じて、一つだけではなく、多種多様な物事の捉え方から世界を見える人材を育てることができます。

②多様なアクティビティを取り入れた授業
例①「英語力向上のための授業」
Oral communication / Reading / Writingの3つの授業を通して、英語の基礎を築きます。
国際色豊かな先生による授業で、「実践的な英語」を学ぶことができます。
オリジナルのSpeaking / Writing bookは、復習・学習に役立ちます。

例②「ICT入門」
Word / PowerPoint / Excelなどの将来使う場面が多いソフトの使い方を英語で学びます。授業内や課題でもパソコンを利用するので、4年間の学修で重要な基礎知識となり、プレゼンテーション、レポート・論文、統計分析の基礎となります。
Team Teachingを採用しているクラスなので、一人の専門教授、もう一人の英語教授の二人で深い内容理解を助けます。

1. リベラルアーツでは様々な科目に触れるので、興味がある科目を見つけ、最終的には卒業のテーマに活かそう!
2. 授業で配布される、Speaking / Writing bookを活用し、電子から使える英語を覚え、授業の中で実践してみよう!
3. 普段の生活の中でも物事を多角的に捉えよう! ニュースで取り上げられる問題の原因は一つだけ?

アドバイザー制度・オフィスアワー
学生一人一人に担当の教員が付きアドバイザー制度(とそれをサポートする学生(先輩))が付き(アドバイザー・アシスタント制度)により学生生活をより快適に送ることができます。
授業前後の時間であるオフィスアワーでは教員と授業に関する相談や普段の生活などの雑談が気軽にできます。

1. 英語の学習方法などを聞きに行こう!
2. TOEICなどの試験対策にも有効!
3. プレゼンの準備等でも活用できる!
4. 授業の課題の支援してもらえよう!

eポートフォリオ
授業・学期末にまとめたジャーナルや、ブラッシュアップした自分の英語力の変化などを記録・閲覧できます。
学生は、毎年記録する自分のeポートフォリオの内容を振り返り、将来の目標設定などに役立てることができます。

1年次のまとめ

英語力

授業での活用

主体性の向上

キャリアデザイン
1～3年次まで必須で、卒業後の進路を適性検査での自己分析結果やゲストスピーカーによる体験談・講義を通して将来設計をします。
適性検査であるSP問題にも力を入れ、講師を交えて問題解説なども行っています。

1. 仕事の情報が多く得られるので、その情報を元に自分がやりたいことにについて考えてみよう!
2. ゲストスピーカーの話をしっかりとメモをとり、職業選択や就職活動に役立つか見つかるよ!
3. 適性検査などを通して自己理解を深め、職業選択の幅を広めよう!

留学で得られる貴重な体験
約16週間
英語圏5カ国(米、加、英、豪、新)
アジアは英語圏の英語圏留学先

留学で得られる貴重な体験
1. 異文化の理解と交流
2. 異文化の理解と交流
3. 異文化の理解と交流
4. 異文化の理解と交流

視野を広げる
留学先で学ぶこと(海外)
1. 異文化の理解と交流
2. 異文化の理解と交流
3. 異文化の理解と交流
4. 異文化の理解と交流

留学eポートフォリオ
ページの枚数
Area Studies (約7000 Words) (約7000 Words)
English Section (約3750 Words) (約3750 Words)
Independent Study (約3750 Words) (約3750 Words)

1. 留学を有意義なものにするために、常に自発的に行動しよう。積極的に異文化に触れ、他国の留学生と関わることで、生きた英語を学ぶことができる!
2. 常に日本との比較意識を持って生活することで、英語力にとどまらず、異なる文化や習慣、そして、教養を身に付けられるよ。
3. Independent Studyは卒業にもつながる。日本では経験できないことを経験し、新しい知識を身に付け、視野を伸ばそう!

卒業論文in English
自分が興味のある題材について6500字以上の論文を書きます。
学生一人一人に専門の先生が付き、3年次の後期から本格的に開始し、4年次には、卒業論文のポスター発表があります。

1. 卒業論文を書く際には、この4年間で学んだことをもとに、自分の興味のある事柄などについて深く掘り下げて調べることが重要!
2. その中で、Writing Readingなどの英語力だけでなく、クリティカルシンキング能力などの学修成果を得ることができよう!

3・4年次の学修
リベラルアーツ教育なので、3・4年次では、学生自身が興味をもった分野について深く勉強できます。
1・2年次のうちに英語力を身につけて、自分が選んだ科目の基礎を学び、海外研修を終えた後、自分の興味のあるコースと科目を選びより深く学修していきます。
学生が興味を持った分野についての知識を伸ばせるようになって、自分の興味のあるところからこそ学生は主体的に学修に取り組むことができます。
多様な学修分野から選べるように、様々な専門分野の先生がいます。学生はいつでも気軽に、先生のオフィスに行き、話すことができます。
国際色豊かな先生方と直接対話することで、学生は多面的な思考力を身に付けることができます。更に、このような学びは卒業論文や就職活動にもつながっていきます。

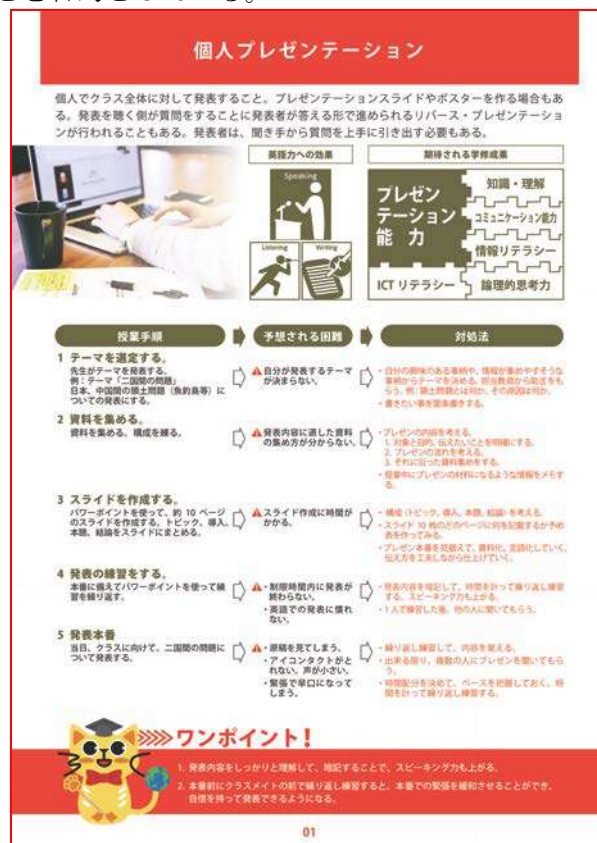
1. 1・2年で学んだことを基に、自分が興味深く学びたい分野を決めよう!
2. 留学で学んだ英語力を更に伸ばすために、授業で積極的に発言しよう!
3. 論文指導の先生に積極的に話に行き、卒業論文のテーマを更に決めよう!

また、平成 31 年 2 月 16 日（土）に行われた本学と関西国際大学合同の「AP 合同シンポジウム」で、学生グループ活動の一環として、本学の学生グループがポスターを発表した。



活動詳細 ②授業レベルでの主体的学修の促進

本学の国際教養学部授業は、様々な種類の AL で組み立てられており、学生は授業で使われる各 AL に効果的に取り組まないと、有効な教育結果は得られない。そこで、学生の視点で AL 型の授業への取組方法をまとめた冊子を作成した。本冊子には、アクティブ・ラーニングの授業に対する効果的な受講方法、予想される困難とその対処法、そして、得られる学修効果が、実際に授業を受けている学生の視点でまとめられている。新入生や在学生在が本冊子を読み、主体的な学修を実現し、本学の学修で更なる学修効果を得ることを目的としている。



グループで各 AL の手法に対する主体的な取組方法を考え、その後、全体会議で議論した。



冊子の内容

- ◆ AL の手法
- ◆ 英語力への効果
- ◆ 期待される学修成果
- ◆ AL の手順・困難・対処法
- ◆ ワンポイント

活動詳細 ③学生レベルでの主体的学修の促進

1年次の学修をまとめるeポートフォリオ・オリエンテーションに参加し、後輩の指導をした。1年生はタブレット PC を持参し実際にページを作成しながら、オリエンテーションを受け、実際にeポートフォリオを活用している国際教養学部先輩（学生グループ）からの指導・助言を受けることができた。

支援の様子



活動詳細 ④授業外での主体的学修の促進

実際に利用する学生の視点から、これまでに整備したeポートフォリオの内容や活用方法に関する意見をまとめ、更に効果的に活用できるよう提言をまとめた。更に、3年生及び4年生のページなどの新しいページの開発も行った。



これまでに導入したページの更なる有効活用への提言



1年のまとめ



2年の留学



英語力のページ

新しいページの開発



3年の就活・卒論



4年の学修まとめ

7. 大学教育再生加速プログラム合同シンポジウム

- ◆ 日時：平成 31 年 2 月 16 日（土）
- ◆ 場所：関西国際大学尼崎キャンパス 3 階 KUIS ホール
- ◆ 主催：関西国際大学・宮崎国際大学
- ◆ 参加者：108 名



大学教育再生加速プログラム

平成30年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」合同シンポジウム

社会が求める力を どのように育成し可視化するか

日時 平成31年 **2月16日(土)** 13:00~17:10

場所 関西国際大学 尼崎キャンパス
3階 KUISホール

主催(共催) 関西国際大学・宮崎国際大学

プログラム

- ポスターセッション[302・303講義室]

12:00~13:00 関西国際大学AP事業報告、課題探求型インターンシップ参加学生2組、宮崎国際大学AP事業報告、学生1組
- 合同シンポジウム

13:00~13:10 主催者(両校)宣言説明 関西国際大学 学長 濱名 高 13:10~13:20 来賓挨拶 文部科学省高等教育局大学振興課 大学改革推進室室長 平野 博紀氏 13:20~14:10 基調講演 「企業の評価と大学の評価 —その接点を考える—」 (独)労働政策研究・研修機構 小杉 礼子氏 14:10~14:30 報告1「関西国際大学のハイ・インパクト・ プラクティスとその学修成果」 関西国際大学 学長補佐・評価センター長 藤木 清 14:30~14:50 報告2「宮崎国際大学のグローバル教育と AP事業」 宮崎国際大学 学長補佐・グローバル教育センター長 西村 直樹 14:50~15:10 報告3「企業として学修成果をどう 活用するか」 (株)ニッセイコム 人事総務本部 執行役員本部長 貞松 逸郎氏 15:10~15:25 休憩・アンケート回収	15:25~16:50 パネルディスカッション 討議/質疑応答 「社会が求める力をどのように育成し 可視化するか」 ・モデレーター/関西国際大学 学長 濱名 高 ・パネリスト/ 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 平野 博紀氏 (独)労働政策研究・研修機構 小杉 礼子氏 (株)インテック・ジャパン 代表取締役 菅野 久幸氏 (株)ニッセイコム 人事総務本部 執行役員本部長 貞松 逸郎氏 関西国際大学 学長補佐・評価センター長 藤木 清 宮崎国際大学 学長補佐・グローバル教育センター長 西村 直樹 16:50~17:00 総評 愛媛女子大学 深澤 昌久氏 17:00~17:10 閉会挨拶 宮崎国際大学 学長 山下 重子
---	---

閉会の後、引き続き2F食堂で
情報交換会を開催いたします。ぜひご参加ください。

【お申込み】
参加をご希望の方は、<https://goo.gl/forms/6eu9NAWRjFazkeeo1> からお願いいたします。



**参加費
無 料**

内容

シンポジウムのテーマは「社会が求める力をどのように育成し可視化するか」で、両大学の AP 事業への取組を踏まえて、大学での学修成果と社会が求める力を考えるためのシンポジウムを開催した。文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室の室長である平野氏の挨拶から始まり、独立法人労働政策研究・研修機構の小杉氏の基調講演「企業の評価と大学の評価ーその接点を考えるー」が行われ、来場者は文科省や有識者の大学での学修成果や社会が求める能力に対する発表を聴くことができた。

事例報告では、本学の西村学長補佐が「宮崎国際大学のグローバル教育と AP 事業」というタイトルで、本学のグローバル教育の中核をなすアクティブ・ラーニングを更に発展させる AP 事業について発表した。引き続き、パネルディスカッションが行なわれ、事例報告と同様に、本学からは西村学長補佐が参加し、大学が育成する力と企業が求める力をどのように可視化し、可視化したものを実際にどう扱うかをテーマに、産学官からの参加者によるディスカッションが繰り広げられた。産学官のそれぞれの立場からの大学で育成する力、そして、社会で求められる力について議論し、とても有意義なディスカッションとなり、参加者からは概ね良好な意見を頂いた。また、AP 事業を紹介するポスターセッションも実施し、参加した他大学の教員及び研究者からは、本学の AP 事業に関する貴重な意見を聴くことができた。

本シンポジウムの開催により、本学の AP 事業を他の高等教育機関へ発信することができ、今後の事業全体の発展に資する有益な意見や情報を多く得ることができた。



シンポジウムの様子



ポスターセッションの様子





宮崎国際大学の グローバル教育とAP事業

平成31年2月16日(土)

宮崎国際大学 学長補佐・グローバル教育センター長
西村直樹



Miyazaki International College (MIC) 宮崎国際大学(MIC)の概要

- ・平成6(1994)年 日本で初めて、**すべての授業**(日本語科目を除く)**を英語で行うリベラルアーツ大学**として設立される。
 - * 比較文化学部比較文化学科(1学部1学科)でスタートする。
- (創立者:宮崎学園第2代目理事長 大坪久泰博士)



「大学考」大坪久泰(英訳:西村直樹)
(文藝春秋発刊、H26.5)

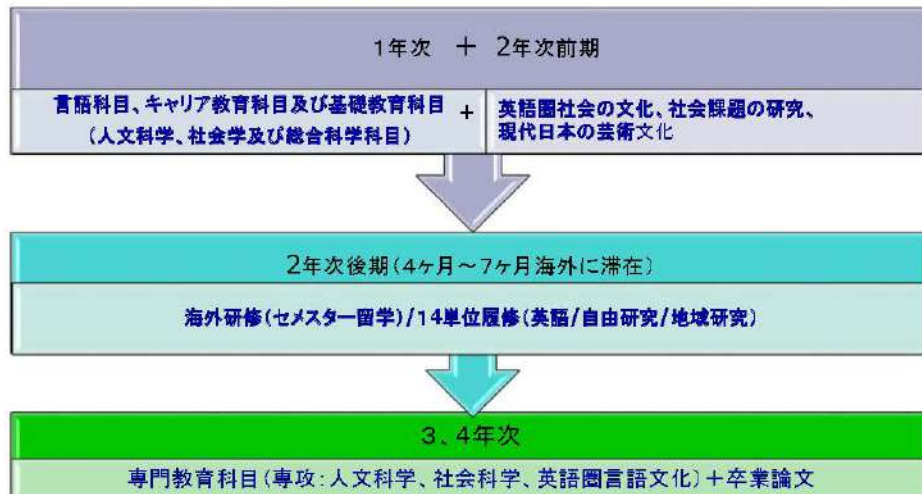
- ・現在は国際教養学部(比較文化学部から改称)、教育学部の2学部2学科を持つ。



AP Joint Symposium
AP合同シンポジウム



国際教養学部のリベラルアーツ教育



AP Joint Symposium
AP合同シンポジウム



MIC国際教養学部の特徴

- 英語で行うリベラルアーツ教育
(人文科学、社会科学、総合科学、学際的科目
を幅広く学ぶ)
- 国際的教授陣(外国人教員比率75%)
- 少人数クラス編成(最大20人を基準とする)
- ティーム・ティーチング(2年次前期まで)
- アクティブ・ラーニングを通してクリティカル・シンキング能力を育成





AP Joint Symposium
AP合同シンポジウム



・海外研修(2年次後期、必修)



AP Joint Symposium
AP合同シンポジウム



海外5カ国にある研修先大学で1学期間学ぶ

グローバル人材に必要な英語・異文化理解・コミュニケーション能力を養う





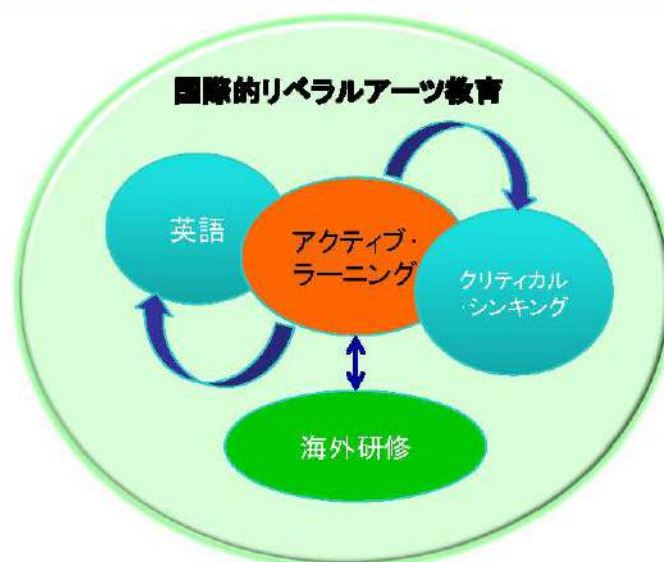
AP Joint Symposium AP合同シンポジウム



ボランティア活動・インターンシップ等で地域住民と交流



AP Joint Symposium AP合同シンポジウム





宮崎国際大学大学教育再生加速プログラム

テーマⅠ・Ⅱ 複合型

I. アクティブ・ラーニング

学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法を行うことにより、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験をめつ汎用的能力の育成を図るもの。

II. 学修成果の可視化

全学的教学マネジメントの改善を図るため、各種指標を用いて学修成果の可視化を行い、その結果を基に教育内容・方法の改善を行う。



1. アクティブラーニング(AL)の発展・体系化(効果的ALモデルの提示)



2. クリティカル・シンキング(CT)能力の測定(CTテストの開発)



3. ルーブリック評価のシラバスへの導入(学修のPDCAの確立)

4. eポートフォリオによる学修成果の可視化(学修成果の蓄積・自己管理)





AP Joint Symposium AP合同シンポジウム



1. アクティブラーニング(AL)の発展・体系化(効果的ALモデルの提示)



2. クリティカル・シンキング(CT)能力の測定(CTテストの開発)



3. ルーブリック評価のシラバスへの導入(学修のPDCAの確立)

ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入
ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入
ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入
ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入
ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入	ルーブリック評価のシラバスへの導入

4. eポートフォリオによる学修成果の可視化(学修成果の蓄積・自己管理)



AP Joint Symposium AP合同シンポジウム



ALの分類・体系化→有効なALの特定

【分類(右記)を基にした調査】

1. 教員の使用頻度
2. 指導事例の収集
- ↓
3. 事例集の作成
- ↓
4. 有効なALの特定(予定)



アクティブ・ラーニングの分類	
分類 1: 内向き・準備型 (全 7 種類)	分類 2: 外向き・準備型 (全 6 種類)
1. クリエイティブ・ライティング 2. 自己評価 3. 要約やまとめを記述する 4. フィードバック・アンケート/レポート 5. ジャーナル・ライティング (振り返りの記述) 6. リアクション・ライティング 7. 卒業論文	1. スキットやドラマ制作 2. ディベートやパネル討論 3. プレゼンテーションやリバーシ・プレゼンテーション 4. 創造的な相談 5. アンケートやインタビュー 6. ビデオ・ライティング
分類 3: 内向き・即興型 (全 5 種類)	分類 4: 外向き・即興型 (全 11 種類)
1. 作文についての筆記による相互評価 2. 思考する時間を取る 3. アクティブ・リスニング 4. 読解 5. 要約したりまとめたりする	1. 対話式講義 2. ファシリテートされたディスカッション 3. 自由討論 4. 事例研究 5. ロールプレイや即興のスキット 6. ジグソーアクティビティ 7. 口頭での言い換えやまとめ 8. インフォーマルなディベート 9. 質問に対するグループワーク 10. ペアで考えてシェアする。グループで考えてシェアする 11. 作文についての口頭での相互評価
分類 5: すべてのカテゴリーに含まれるアクティブ・ラーニング (4 項目)	
1. 学生が協力して行うプロジェクト 2. 実践への応用や実験 3. 地域コミュニティに根ざしたプロジェクト 4. 学生による評価基準の作成	

指導事例の収集→事例集の作成

【事例集一例】



【学内HPでの共有】



1. アクティブラーニング(AL)の発展・体系化(効果的ALモデルの提示)



3. ルーブリック評価のシラバスへの導入(学修のPDCAの確立)



2. クリティカル・シンキング(CT)能力の測定(CTテストの開発)



4. eポートフォリオによる学修成果の可視化(学修成果の蓄積・自己管理)





【MICCTTの概要】

- ・ 国際教養学部の学習環境を考慮した英語でのテスト
- ・ 7つのCT能力を測定
- ・ 計26問(4択問題形式)で構成
- ・ 実施スケジュール: 1年生(7月)、3年生(4月)、4年生(11月)
- ・ CT能力の経年的伸長度を測る

1. アクティブラーニング(AL)の発展・体系化(効果的ALモデルの提示)

2. クリティカル・シンキング(CT)能力の測定(CTテストの開発)



3. ルーブリック評価のシラバスへの導入(学修のPDCAの確立)

評価項目	評価基準	評価結果
知識の理解	基礎知識の理解	理解している
知識の応用	基礎知識の応用	応用している
知識の統合	基礎知識の統合	統合している
知識の創造	基礎知識の創造	創造している

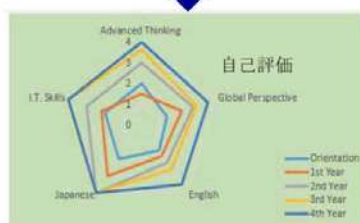
4. eポートフォリオによる学修成果の可視化(学修成果の蓄積・自己管理)



【シラバスでDPの達成目標を提示】

- DP5項目 × 各項目8つの評価項目 = 計40項目
を5段階で測定
- 学生は各年度末に自己評価、伸長度を確認

DP項目	各項目に対する文章の一例	0	1	2	3	4
Advanced Thinking	Think about data or evidence and make a logical conclusion データや証拠を考慮し、論理の立つ結論に達する		✓			
Global Perspective	Understand and share feelings of inequality 不平等に対する捉え方に共感し理解する				✓	
English	Write ideas with developed arguments 証拠に基づいた論点をもって自らの考えを書面で表現する			✓		
Japanese	Express my ideas about the text or discussion 文章またはディスカッションに関する自分の考えを表現する				✓	
I.T. Skills	Make good quality presentation materials 高度なプレゼンテーション材料を作成する					✓



1. アクティブラーニング(AL)の発展・体系化(効果的ALモデルの提示)
2. クリティカル・シンキング(CT)能力の測定(CTテストの開発)



3. ルーブリック評価のシラバスへの導入(学修のPDCAの確立)

4. eポートフォリオによる学修成果の可視化(学修成果の蓄積・自己管理)





AP Joint Symposium AP合同シンポジウム



eポートフォリオセンターによる eポートフォリオ・オリエンテーション

【全体会】



【グループ単位でも適宜実施】



学生はタブレットPCを持参



AP Joint Symposium AP合同シンポジウム



MIC School of International Liberal Arts ePortfolio



eポートフォリオ
フロントページ
(2019年度より)

- 1年次のまとめ
- 2年次留学ページ
- 3年次のまとめ
- 4年間を振り返って
- 英語力伸長度確認
- DP達成度評価
- 授業外学修時間の管理

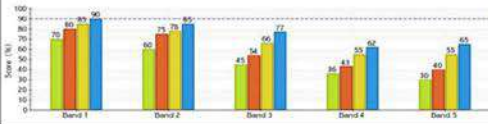


AP Joint Symposium AP合同シンポジウム



Asahi University
大学教育再生推進プログラム

Vocabulary Test



Score (%)

David 1: 75, 80, 80, 90
David 2: 65, 75, 75, 80
David 3: 45, 55, 60, 77
David 4: 35, 45, 55, 62
David 5: 30, 40, 45, 55

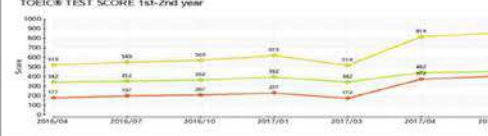
Legend: 1st: April, 2nd: July, 1st: February, 2nd: July

上図の語彙力テストの結果に対する振り返り及び目標設定をするスペース。
In this space, students can reflect on their scores and set goals.

英語力伸長度確認

1. 今回のTOEIC(RL)結果をどうみているか？
2. 次回の目標得点は？
3. 点数を上げるために今後することとは？

TOEIC® TEST SCORE 1st-2nd year



Score

2014/04 2015/07 2016/10 2017/01 2017/03 2017/04 2017/07

Legend: Reading, Listening, Total

TOEIC® TEST

The maximum score of TOEIC® TEST



Score

Reading: 480, Listening: 480, Total: 960

上図の TOEIC の結果に対する振り返り及び目標設定をするスペース。
In this space, students can reflect on their scores and set goals.

学生



←

AP事務局



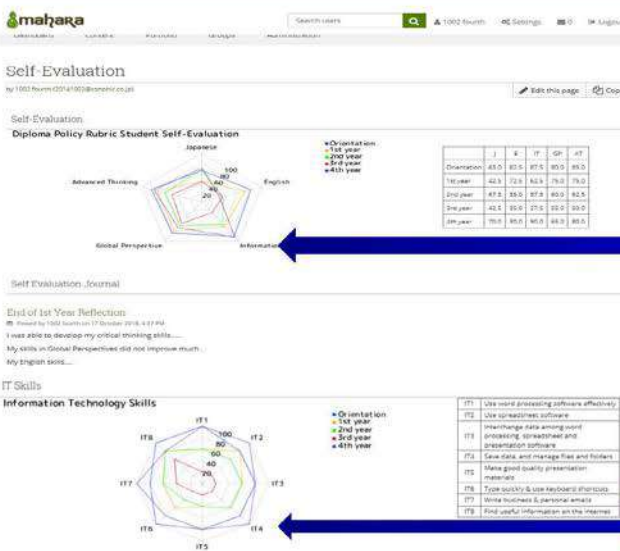
*AP事務局が学生のコメントに対するフィードバックを通宜行い、自主的学修を促す。



AP Joint Symposium AP合同シンポジウム



Asahi University
大学教育再生推進プログラム



Self-Evaluation

by 1001 hysm 02/14/2018 @asahinet.co.jp

Self-Evaluation

Diploma Policy/Rubric Student Self-Evaluation

Japanese English

Advanced Thinking Global Perspective Information

Legend: 1st year, 2nd year, 3rd year, 4th year

	1	2	3	4	5
Orientation	45.0	47.5	47.5	48.0	48.0
1st year	42.5	42.5	42.5	42.5	42.5
2nd year	47.5	45.0	47.5	48.0	42.5
3rd year	42.5	45.0	47.5	48.0	42.5
4th year	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0

DP5項目の自己評価の平均レーダーチャート

Self-Evaluation Journal

End of 1st Year Reflection

Created by 1001 hysm 17 October 2018 4:27 PM

I was able to develop my critical thinking skills...

My skills in Global Perspectives did not improve much...

My English skills...

IT Skills

Information Technology Skills

	1	2	3	4	5
IT1	45.0	47.5	47.5	48.0	48.0
IT2	42.5	42.5	42.5	42.5	42.5
IT3	47.5	45.0	47.5	48.0	42.5
IT4	42.5	45.0	47.5	48.0	42.5
IT5	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0

各項目、8つの評価項目の自己評価平均レーダーチャート

DP達成度評価

5項目、各8つの評価項目を5段階で評価

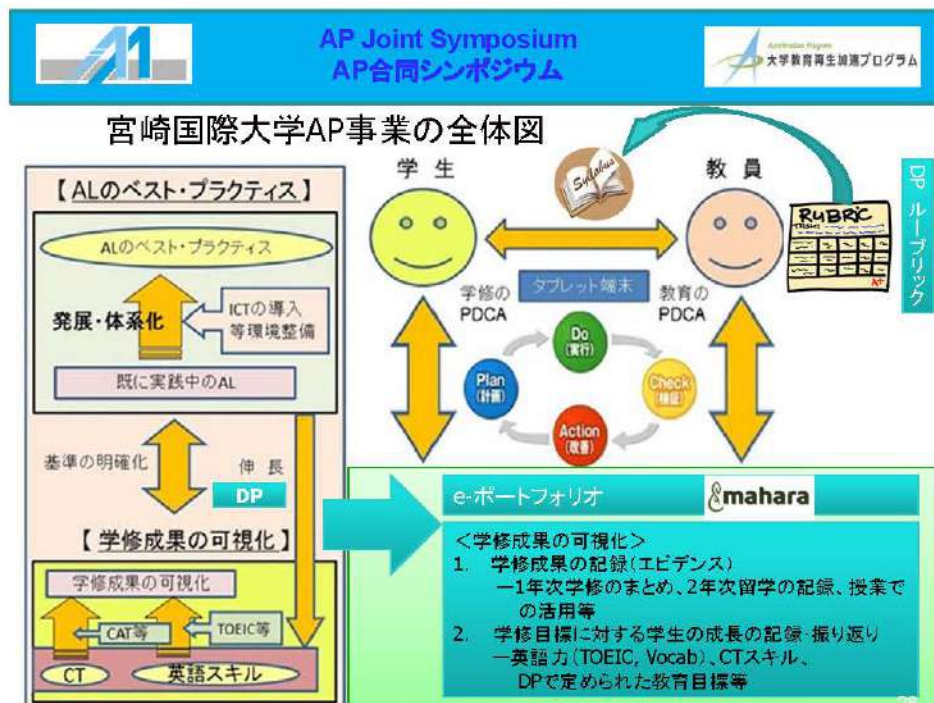
DP5項目の自己評価の平均レーダーチャート

各項目、8つの評価項目の自己評価平均レーダーチャート



週ごとの授業外学修時間を記入

折れ線グラフ自動作成





AP Joint Symposium
AP合同シンポジウム



ご静聴ありがとうございました。
Thank you for your attention.

宮崎国際大学での主体的な学修の実現に向けて～学生の視点から主体性を考える～

AL改善学生グループ(国際教養学部): 藤山佳菜子(ウーダー) 入佐 加寿真 宮本 啓太郎 榎木 那奈美

1年次・少人数クラスでの英語によるAL授業

2年次後期: 海外研修

3・4年次: 深い学び

卒業

1年次の授業の特色

①リベラルアーツ

- 例1:「リベラルアーツ入門」What is Liberal Arts?
1. Essential knowledge, not just facts
 2. Social Science, Humanities, Natural Science and ICT
 3. A non-professional curriculum 非専門のカリキュラム

国際教養学部が推進するリベラルアーツ教育による様々な授業を通して、一つだけではない、多種多様な物事の見え方から世界を見る人柄を育てることが出来ます。

②多様なアクティビティを取り入れた授業

- 例1:「英語力向上のための授業」
- Oral communication / Reading / Writingの3つの授業を通して、英語の基礎を築きます。
 - 国際色豊かな先生による授業で、「実用的な英語」を学ぶことができます。
 - オリジナルのSpeaking / Writing bookは、便宜「学習」に役立ちます。



例2:「ICT入門」

- Word / PowerPoint / Excelなどの将来使う場面が多いソフトの使い方を英語で学びます。授業内や課題でもパソコンを利用するので、4年間の学修で重要な基礎知識となり、プレゼンテーション、レポート論文、統計分析の基礎となります。
- Team Teachingを採用しているクラスなので、一人の専門教授、もう一人の英語教授の二人で深い内容理解を助けます。

1. リベラルアーツでは様々な科目に触れるので、興味がある科目を見つけ、最終的には専攻の分野に活かす;
2. 授業で使われるSpeaking / Writing bookを活用し、冊子から使える英語を覚え、授業の中でも実践してみよう;
3. 普段の生活の中でも物事を多面的に捉えてみよう! ニュースで取り上げられる問題の原因は一つだけ?

アカデミック・リソース・センター

- 特定の教員は、いつでも英語に慣れる機会を開けます。
- 複数人向けのテーブルを設けており、グループワークに活用することが出来ます。

1. 英語の学習方法を聞きに行こう!
2. TOEICなどの試験対策にも有効!
3. プレゼンテーションでも活用出来る!
4. 授業の課題の支援してもらえ!

eポートフォリオ

- 授業・学習にまつ様々なジャーナルや、ブログ化し、自分の英語力の変化などを記録・公開出来ます。
- 学生は、毎年記録する自分のeポートフォリオの内容を振り返り、将来の目標設定などに役立てることが出来ます。

1年次のまとめ



授業での活用



主体性の向上

キャリアデザイン

- 1-3年次まで必須で、卒業後の進路を適性検査での自己分析結果やオズボーンカードによる適性検査の結果を基に将来設計をします。
- 適性検査であるSPH問題にも答え入れ、講師を迎えて問題解説なども行っています。

1. 仕事の情報がよくわかるので、その情報を基に自分がやりたいことにチャレンジしてみよう!
2. オズボーンカードの話をきっかけに、まず、職業選択や就職活動に役立つポイントが見つかるよ!
3. 適性検査を通して自己理解を深め、職業選択の幅を広めよう!

留学で得られる貴重な体験

- 約10週間 英語圏5カ国(米・加・英・豪・新) プログラムは年次毎の交換学生授業
- 1. 異文化の理解の促進
 - 2. 国際観念の向上
 - 3. 異文化での生活の英語の習得
 - 4. 異文化への理解の向上
 - 5. 異文化への理解の向上
 - 6. 異文化への理解の向上



海外での生活は、自分自身の成長に大きく貢献します。異文化の理解、英語力の向上、国際観念の向上など、多くの貴重な体験が得られます。



海外での生活は、自分自身の成長に大きく貢献します。異文化の理解、英語力の向上、国際観念の向上など、多くの貴重な体験が得られます。

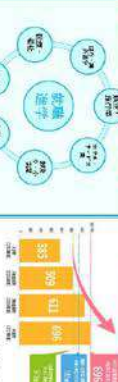
留学のポートフォリオ

ページの構成

- About Study 留学の意義や文化に関する学習
- English Section 留学中の英語学習に関する記録
- 3150 Words (約10ページ)
- Independent Study 自分だけのテーマで研究
- 3150 Words (約10ページ)

1. 留学を志す者たちにとって、常に自発的に行動しよう、積極的に異文化に接し、他国の留学生と関わることで、生きた英語を学ぶことが出来る!
2. 常に日本との比較意識を持つことで、英語力に成長する。異なる文化や習慣、そして、教育を身に付けられる!
3. Independent Studyは卒業につながる。日本では経験できないことを経験し、新しい知識を身に付け、視野を広げよう!

多岐にわたる卒業後の進路



1. キャリア教育プログラムや就職ガイダンスに加えて、3・4年生を対象とした個別相談を活用することで学生一人一人に応じた個別の進路支援が確保できる!
2. 就職支援センターにある求人情報や企業説明会情報、インターンシップの情報を早い段階から収集することで職業選択の幅が広がります!

卒業論文 In English

自分が興味のある題材について6500字以上の論文を書きます。

➢ 学生一人一人に専門の先生が付き、3年次の後期から本格的に開始し、4年次に、卒業論文のボスラー発表があります。

卒業論文を書く際には、この4年間で学んだことをもとに、自分の興味のある事柄などについて深く掘り下げて書くことが重要!

➢ そうすることで、Writing Readingなどの英語力だけでなく、クリティカルシンキング能力などの学修成果を得ることが出来る!

3・4年次の学修

リベラルアーツ教育なので、3・4年次では、学生自身が興味をもった分野について深く勉強します。

➢ 1年次生は英語力を身に付けて、自分の興味のある分野や科目を選び、海外研修を経験した上で、自分の興味のある分野について自分の知識を伸ばせるよう、多様な学習分野から選べるように、様々な専門分野の先生がいます。学生はいつでも気軽に、先生のオフィスに行き、話すことが出来ます。

➢ 国際色豊かな先生と直接対話することで、学生は多面的な視点を身に付けることが出来ます。更に、このように学ぶことは卒業論文や就職活動にもつながります。

1・2年次の学修

1. 分野を決めよう!
2. 留学で上達させた英語力を更に伸ばすために、授業で積極的に発言しよう!
3. 論文担当の先生に積極的に問いに行き、卒業論文のテーマを更に深めよう!

1・2年次で学んだことを基に、自分が興味深く学修したい分野を決めよう!

➢ 留学で上達させた英語力を更に伸ばすために、授業で積極的に発言しよう!

➢ 論文担当の先生に積極的に問いに行き、卒業論文のテーマを更に深めよう!

1st year Student Self-Evaluation vs Skills
例：1年生の自己評価 vs 成績評価からのスキル

8. シンポジウム・学会への参加及び発表（訪問調査を含む）

	月	シンポジウム・学会名（場所）	内容
①	9月	AP 選定校合同 FD・SD ワークショップ（広島県）	AP 採択校の教職員のための 1 泊 2 日の研修会
②	9月	Mahara Open Forum 2018（奈良県）	本学の e ポートフォリオへの取組の口頭発表
③	10月	The Asian Conference on Education（東京都）	開発している MIC クリティカル・シンキングテストについてのポスター発表 →テーマⅡへの取組を参照
④	10月	関西国際大学（兵庫県）	本学 AP 事業のループリックへの取組に関する助言を頂くための訪問調査
⑤	11月	AP テーマⅠ＆Ⅰ・Ⅱ合同開催シンポジウム（京都府）	AP テーマⅠ＆Ⅰ・Ⅱ合同開催シンポジウム及び情報交換会への参加
⑥	12月	大学教育学会（長崎県）	DP の学修目標の可視化及び DP の到達のための自律的学修に関するポスター発表（テーマⅠ・Ⅱ採択校の山口大学との共同発表）
⑦	12月	高知大学「AP 事業シンポジウム」（高知県）	本学の AP 事業の取組全体に関するポスター発表
⑧	2月	本学と関西国際大学の共催の「AP 合同シンポジウム」（兵庫県）	ポスターセッション及び事例報告での本学の取組に関する発表 パネルディスカッションへの参加
⑨	2月	日本福祉大学（愛知県）	テーマⅤ幹事校の取組の訪問調査
⑩	3月	大学教育研究フォーラム（京都府）	学生参画の取組に関するポスター発表

① AP 合宿

- ◆ 日時：9月10～11日
- ◆ 場所：神石高原ホテル（広島県）
- ◆ 目的：AP選定校合同FD・SDワークショップ（AP合宿）に参加するため
- ◆ 内容：この合宿は、すべてのAP採択校を対象にした1泊2日の研修会で、各テーマを超えた「高大接続事業としてのAP」を軸に大学改革についての議論をする合宿であった。合宿は、AP採択校の金沢大学及び芝浦工業大学の両学長による基調講演から始まった。APへの取組を軸に、現在実施している大学改革についての各学長による講演で、少子化や国際化の中で生き残るための大学改革における課題や展望について話した。講演後は、APのテーマⅠ～Ⅴを横断的に編成したグループからなるグループワークを実施した。グループ毎に、AP後の大学改革についての提案をまとめ、発表するというグループワークで、学長のリーダーシップの在り方、教職員及びその他のステークホルダー（学生、親、地域の企業）を含んだ協働の大学改革、学修成果の可視化、大学の質保証、高大接続、地域創生のための課題など、大学改革の様々な面について議論し、その解決策をまとめた。大学改革を実施している他大学の教職員と2日間過ごし、普段の学会や会議等では得られない、合宿ならではの濃密で有意義な時間を過ごすことができた。この合宿で得た貴重な経験や情報を基に、本学のAP事業を通じた大学改革を一層発展させていきたいと思う。

合宿の様子



② Mahara Open Forum 2018

- ◆ 日時：9月16～17日
- ◆ 場所：奈良県 なら100年会館 小ホール
- ◆ 目的：AP事業で導入したeポートフォリオであるMaharaの学会にて、本学APの取組を発表することで、AP事業を普及させる。また、Maharaの研究者及び教育者と交流し、知見を得ることで、本学のeポートフォリオへの取組に役立てる。
- ◆ 内容：畿央大学が主催した「Mahara Open Forum」（本学が採用しているeポートフォリオのシステムであるマハラ（Mahara）の学会）に教員1名が参加し、本学のeポートフォリオへの取組を発表した。高等教育機関でマハラを実践する教育者や研究者と交流することができ、学生の学修を支援するためのマハラ活用の更なる知見を得ることができた。また、本学のeポートフォリオへの取組を発表し、質疑応答を通じて、助言を頂くことができた。今回のフォーラムに参加することで、マハラを使った振り返りや目標設定や、学生の主体的な学修に繋がるマハラの利用方法をより深く知ることができた。今回の学会参加で得た知見を基に、本学でのeポートフォリオへの取組を再点検する良い機会となった。

発表の様子



③ The Asian Conference on Education での発表→テーマⅡ（学修成果の可視化）への取組を参照

④ 関西国際大学

- ◆ 日時：10月20日
- ◆ 場所：関西国際大学
- ◆ 目的：本学AP事業のルーブリックへの取組に関する助言を頂くため。
- ◆ 内容：本学でルーブリックの開発を担当している教職員3人（教員2名、職員1名）を関西国際大学へ派遣し、本学のこれまでのルーブリック活用の取組を発表し、助言を頂いた。日本の高等教育機関で先進的に学修ルーブリックを活用している関西国際大学の関係者に対し、本学でのこれまでのDPルーブリック活用及び4月に収集したルーブリックに関する初期データを発表することで、より具体的で有効な助言を頂くことができた。

今回の訪問を基に、DPルーブリックの活用を更に推進することができた。まず、教員に対して、DPルーブリックを授業に取り入れるように促進し、教員は自分の授業でDPルーブリックの項目をシラバスで明記し、その項目で示された能力を伸ばすような授業展開が期待されている。また、3月には国際教養学部全学生がDPルーブリックを用いて自己評価を実施し、更なるデータを収集することができた。今後は、DPルーブリックの更なる有効活用を推進することで、学生はDPの達成に向けた日々の学修に意欲的に臨むことができる。

⑤ APテーマI & I・II合同開催シンポジウム

- ◆ 日時：11月23日
- ◆ 場所：キャンパスプラザ京都
- ◆ 目的：APテーマI & I・II合同開催シンポジウム及び情報交換会に参加するため。
- ◆ 内容：このシンポジウムは、APテーマI及びテーマI・II複合型の共同開催シンポジウムで、各テーマの採択校より2校ずつがそれぞれの取組を発表した。

シンポジウムに先立ち、テーマI・II採択校の意見交換会が行われた。参加校は11校で、各大学はそれぞれの進捗状況と今後の課題についての意見を交換した。シンポジウムは、先



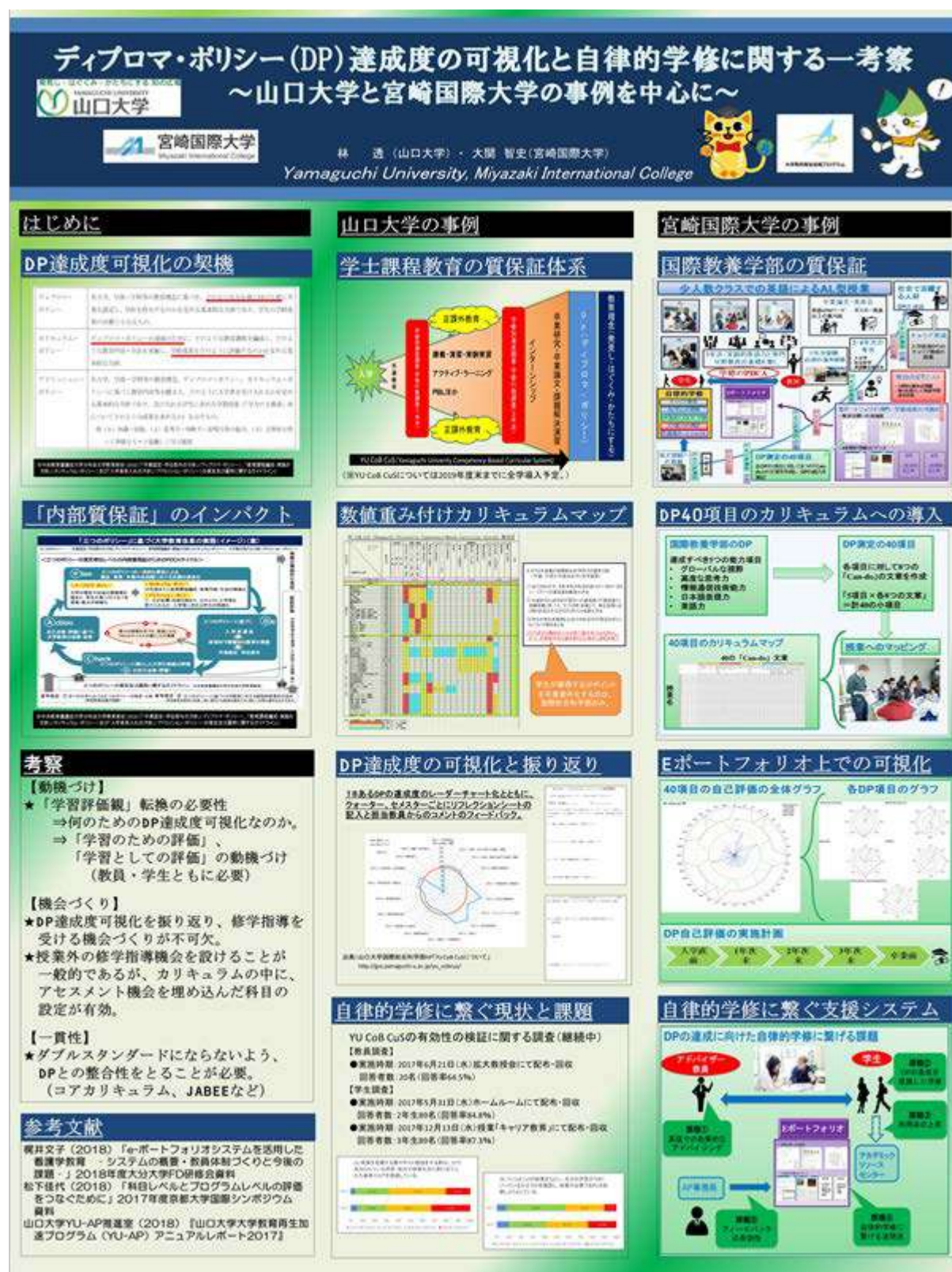
進的にAPに取り組んでいる採択校の取組の紹介で、非常に参考となる内容であった。本学のAP事業に参考となる取組内容の紹介も多々あり、有益な情報を得ることができた。また、意見交換会に参加することで、うまくいっていない部分も共有することができ、課題も明確になった有意義なシンポジウム参加であった。

⑥ 大学教育学会

- ◆ 日時：12月1～2日
- ◆ 場所：長崎国際大学
- ◆ 目的：AP採択校の山口大学と合同で、APに取り組んでいる学修成果のDPをテーマにしたポスター発表をするため
- ◆ 内容：ポスターセッションでは、本学と同じテーマⅠ・Ⅱ採択校の山口大学と共同でポスターを発表した。DPで示した学修目標の可視化、そしてDPの到達のための自律的学修をテーマとした、それぞれの大学での取組及び課題をまとめたポスター発表であった。3つのポリシーの整備、そしてDPで示した学修目標の到達に向けた主体的な学修は、全国の大学の共通課題であり、来場者の興味は高く、本学の取組を紹介し、意見交換ができた。また、ポスターセッションを通じて、他大学の発表者に直接質問し、意見交換することで有益な情報を得ることができた。特に、汎用的能力を測定する取組や全学eポートフォリオなどの発表は、本学AP事業の取組の参考になった。大学教育学会での発表だったので、AP採択校以外の日本全国で大学教育を実践している教職員と意見交換することができ、非常に有益な学会参加であった。特に今回の大会は長崎国際大学で実施され、開催校シンポジウムの内容が本学と関連のある「国際」や「アクティブ・ラーニング」がテーマだったので、非常に勉強になった学会であった。

ポスター発表の様子





⑦ AP 事業シンポジウム（高知大学）

- ◆ 日時：12月7日
- ◆ 場所：高知市文化プラザかるぽーと
- ◆ 目的：文科省、経済産業省及び高等教育開発センターの基調講演を聴くとともに、他大学の AP 事業に関する知見を得る。また、AP 採択校によるポスターセッションに参加することで、本学の取組を参加者に紹介し、意見交換を行う
- ◆ 内容：文科省の基調講演があり、改めて AP 事業の使命や 3 つのポリシーの重要性などを再確認できた。そして、2018 年に中央教育審議会の答申で発表された「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」においては、現在 AP 事業で実施している改革が重要になってくるので、AP 事業の大切さが再認識できた。また、社会で活躍できる能力を育てるための大学教育という側面が、近年注目されていることもあり、特に経済産業省の方の基調講演は興味深く勉強になった。計 11 校が参加したポスターセッションでは、本学の取組を発表した。参考校の中で唯一のテーマⅠ・Ⅱ複合型であったので、アクティブ・ラーニングとその学修成果の可視化に関する質問を受け、質疑応答を通じて他校と意見交換できた有意義なポスターセッションであった。また、テーマⅤ（質保証）の採択校が 5 校あり、質保証の観点からの AP 事業について参考になる情報を得ることができた。特に、本学と同様に DP の達成を自己評価で測定する取組の発表が数校あり、質疑応答を通じて、有益な情報を得ることができた。

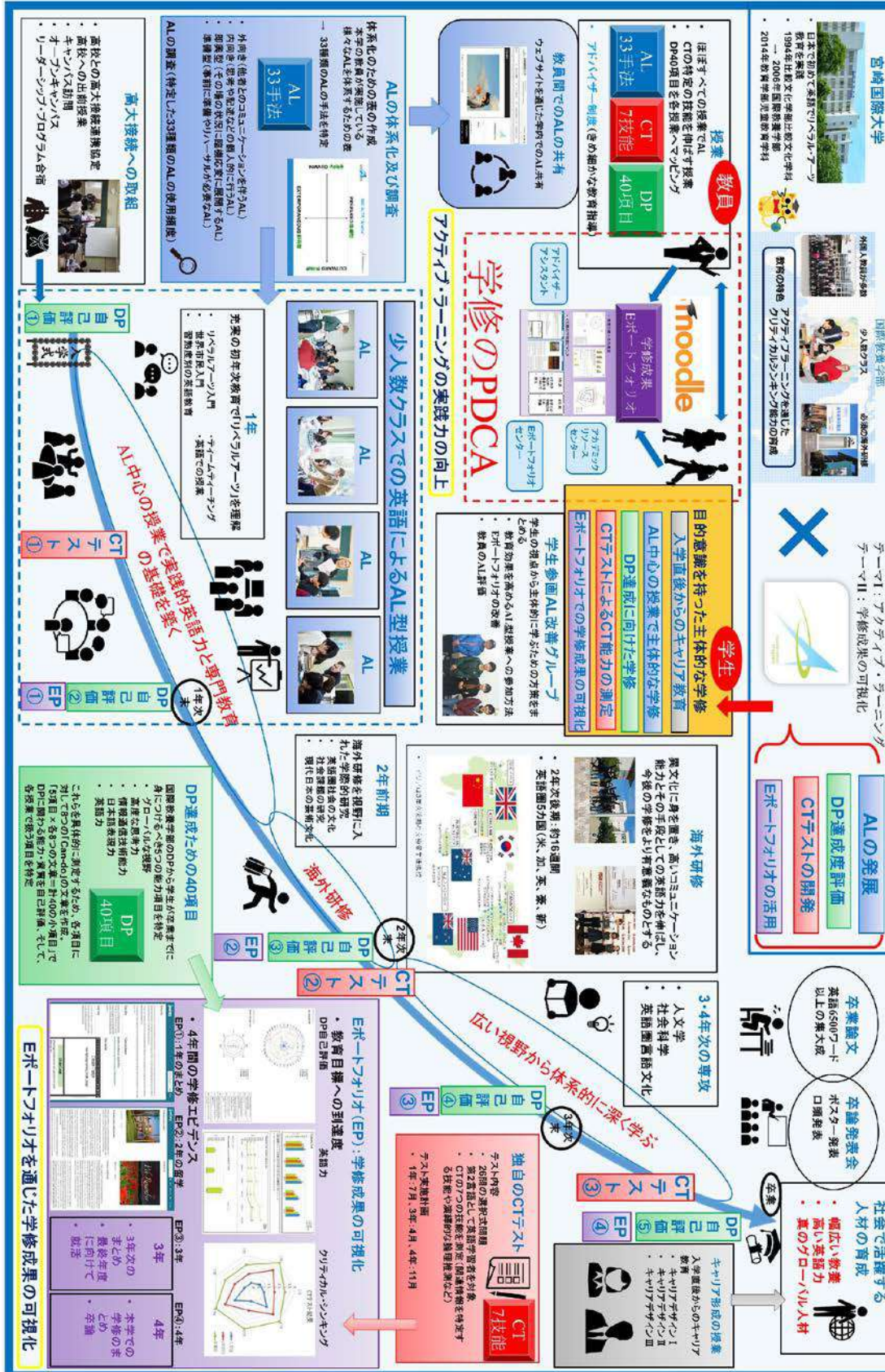
ポスターセッションの様子





宮崎国際大学の特色を活かし発展させるAP事業

宮崎国際大学 アセスメントオフィサー 大関智史



⑧ AP 合同シンポジウム（主催）→AP 合同シンポジウムのページを参照

⑨ 日本福祉大学での訪問調査

- ◆ 日時：3月4日
- ◆ 場所：日本福祉大学 美浜キャンパス
- ◆ 目的：AP テーマ V（質保証）の幹事校である日本福祉大学への訪問調査し、最終年度に向けた本学の AP 事業に役立てる。
- ◆ 内容：今回、テーマ V の幹事校である日本福祉大学を訪問し、実際に、AP 担当者と話すことで、様々な有益な情報を得ることができた。一つは、本学と関西国際大学の合同シンポジウムのテーマでもあった「社会で求められる能力と大学で育成する力」に関するもので、日本福祉大学のディプロマ・サプリメントへの取組は、大学で育成した力を社会に提示する仕組みの構築なので、本学での学修成果をどのように社会に提示するかについて、大変参考になった。特に、ディプロマ・ポリシーの達成度などがサプリメントに含まれていたのも、大学が社会に提示する学修成果の可視化に役立つ。また、日本福祉大学の総合学生カルテの取組は、本学の e ポートフォリオへの取組と似ている点が多いので、本学が学修成果の可視化として取り組んできた内容の方向性を再確認するとともに、本学の e ポートフォリオの更なる活用方法の参考になった。実際の課題など、報告書には載っていない内容も議論することができ、有益な訪問調査となった。



⑩ 大学教育研究フォーラム

- ◆ 日時：3月23～24日
- ◆ 場所：京都大学吉田キャンパス
- ◆ 目的：大学教育研究フォーラムに参加し、他大学の大学教育に対する取組を知ること、今後の本学の取組への参考にする。また、ポスター発表に参加することで、本学のAPへの取組を発表し、本取組を対外的に波及させる。
- ◆ 内容：このポスターセッションでは、高等教育に関する様々な発表がポスター形式で実施され、合計120のポスターが発表された。本学からは、「学修効果を高めるための学生参画の取組—学生の視点からの主体的な学修の考察・改善—」というタイトルで、これまでの本学のAP学生グループの取組を中心に、本学及びAP事業についてのポスターを発表した。具体的には、開学以来の教育の中核である「アクティブ・ラーニングによるクリティカル・シンキング能力の育成」を発展させるために実施している本学APの4つの主な取組を紹介した。1) 授業でのALの手法の実態把握・体系化及びALの指導力の向上。2) CT能力の可視化のためのテスト開発。3) ルーブリックによる学修のPDCAの確立。4) eポートフォリオ上での学修成果の可視化。この4つの取組を中心に、本学が伝統的に実施してきたALを更に発展させ、eポートフォリオ上で学修成果を可視化することで、授業内外でのALによる主体的な学修の達成を目指していることを説明した。更に、本学の教育の特色であるALを学生の視点から促進及び改善することを目的とし立ち上げた学生グループの活動に焦点を当て、ポスター発表を実施した。本学のポスター発表には、AP採択校のみならず、全国の大学の研究者や関係者が来たので、教育改革についての意見を交換する貴重な機会となった。

宮崎国際大学
Miyazaki International College

学修効果を高めるための学生参画の取組

—学生の視点からの主体的な学修の考察・改善—

宮崎国際大学 大関 智史

Activation Program
大学教育再生加速プログラム

はじめに

2012度の中央教育審議会答申で示されたように、学生の主体的な学修を促す高等教育が推進されている。近年、FDによる教員の指導力の向上や授業アンケートに基づいた授業改善など、教員側の改善には取り組んでいるが、授業を受ける学生側の改善点はあまり注目されていない。本ポスターでは、アクティブ・ラーニング(AL)を取り入れた授業を受講する学生側の改善点に着目した、学修効果を高めるための学生参画の取組を紹介する。

宮崎国際大学

- 1994年に国際教養学部(当時は比較文化学部)の1学部で開学した。(現在は2学部)
- 建学の精神(礼節・勤労)の人材養成方針に基づく国際的なリベラルアーツ教育を提供している。
- 開学当初からほぼ全ての授業を英語で行い、学生の主体性を促すALを通じたクリティカル・シンキング(CT)能力の育成が教育目標の一つである。

大学教育再生加速プログラム(AP)

- 2014年、APテーマⅠ(アクティブ・ラーニング)とテーマⅡ(学修成果の可視化)の複合型に採択された。
- 開学当初からの教育目標である「ALによるCT能力の育成」を発展させるAP事業で、具体的な目標は以下の通りである。
 - 授業でのALの手法の実態把握・体系化及びALの指導力の向上
 - CT能力の可視化のためのテスト開発
 - ルーブリックによる学修のPDCAの確立
 - eポートフォリオ上での学修成果の可視化

AP事業の全体図

学生グループ

背景: 本AP事業は、「授業におけるALを発展・充実させるとともに、eポートフォリオで学修成果を可視化し、学生の主体的な学修を効果的に促進する」取組である。しかし、教育内容や教育システムが向上しても、教育を受ける側の学生が、それらの目的をしっかりと理解し、活用できなければ、大きな効果は望めない。

目的: 本事業の取組を、学生の視点から効果的に享受し活用するための方策を考える「AP学生グループ」を立ち上げ、主体的学修を促進するためにはどうすればいいの、学生自身が検討し、学生レベルでAP事業を普及させる。

①プログラムレベルでの主体的学修の促進 ～ポスター作成及び発表～

2018年度の本学と関西国際大学のAP合同シンポジウムで学生ポスターを発表した。

②授業レベルでの主体的学修の促進 ～ALの効果的な受講方法をまとめた冊子～

本学の授業で利用されるALの手法に対する効果的な取組方法をまとめた。

冊子の内容

- ALの手法
- 育成される英語力の種類
- 学修効果
- ALの手順・困難・対処法

活動紹介

③学生レベルでの主体的学修の促進 ～先輩への指導～

「1年のまとめ」ページのeポートフォリオ・オリエンテーションの支援

先輩の指導

④授業外での主体的学修の促進 ～eポートフォリオ活用の見直し及び開発～

これまでに導入したページの更なる有効活用への提言

1年のまとめ

2年の留学

英語力のページ

新しいページの開発

3年の就活・卒論

4年の学修まとめ

まとめ

学生の主体的学修を推進するための学生グループの活動を開始し、今年度は4つの活動を通じて、学生の主体性の向上に取り組んだ。今後は、今年度の取組の教育効果を測定し、その結果に応じた改善の必要がある。

73

IV. 平成 30 年度外部評価委員会

1. 外部評価委員会 概要

① 目的 平成 30 年度の本学 AP 事業を外部の有識者に評価して頂き、来年度に役立てる。

② 日 時 平成 31 年 3 月 20 日（水曜日）： 14～17 時

③ 場 所 宮崎国際大学 1 号館 201

④ 外部評価委員

林 透 先生 （山口大学 大学教育センター・准教授） AP テーマⅠ・Ⅱ採択校

坂本 ロビン 先生（杏林大学外国語学部学部長・教授） AP テーマⅢ（高大接続）採択校

中村 清子 様 （株式会社テレビ宮崎 UMK 報道部 報道記者）

杜 朱莉 先生 （聖心ウルスラ高校教諭 本学卒業生）

藤山 佳菜子さん （国際教養学部 3 年生）

⑤ 本学会者

山下学長 西村学長補佐 パッソス国際教養学部長 ウォーカー学部長補佐

シンプソン・アラン 大関 AP オフィサー 西中 AP 事務補佐

⑥ 当日のスケジュール

時間	スケジュール
14:00 ～ 14:30	全体会（挨拶及び出席者紹介） - 開会の挨拶（学長） - 本学教職員の紹介 - 外部評価委員 自己紹介 - 本学の AP 事業の概要説明
14:30 ～ 15:00	外部評価委員による事前打合わせ - 委員長の選出 - 委員による資料の精査及び質問事項の選定
15:00 ～ 16:00	質疑応答（委員長の裁量による） - プロジェクト全体への質疑応答 - 個々の取組に対する質疑応答
16:00 ～ 16:30	外部評価委員による講評の打ち合わせ - 各委員による講評 - 委員長による総評
16:30 ～ 17:00	全体会（外部評価委員会総評） - 委員長による総評及び（必要に応じて）補足質問 - 閉会の挨拶（西村学長補佐）

⑦ 内容

山口大学林委員からは、本学と同様、AP テーマⅠ・Ⅱに取り組む立場で有意義な質問や提案を受けることができ、AP テーマⅢに取り組んでいる杏林大学坂本委員からは、高大接続の観点から本学 AP 事業に関する意見を頂いた。また、昨年度と同様、外部評価委員に本学の卒業生や在学生

を含めることで、教育を受ける側からの本学の取組に関する貴重な意見を聞くことができた。質疑応答の時間では、本事業全体に関する質問から最終年度での取組内容など、多様な質問をきっかけに有意義な議論がなされ、本事業のこれまでの成果に対する肯定的な評価や、最終年度及びその後の事業展開に関する貴重なアドバイスを受けることができた。外部評価委員会の評価が本事業のPDCAの重要な一環を担っているため、その評価を真摯に受け止め、最終年度の事業に取り組みたい。

2. 外部評価委員会 総評

宮崎国際大学 AP 事業は、小規模大学だからこそできる、「アクティブ・ラーニング」、「クリティカル・シンキングテスト」、「e-ポートフォリオ」、「DP 達成度可視化」に関する組織的な取組であり、その特色を自覚しながら、精力的に成果発信が進んでいることを評価したい。特に、アクティブ・ラーニングに関する取組が数段に進展し、学生グループの活動も絡めながら、非常に好ましい状況にあると思う。この順調さを維持しながら、最終年度の取組に邁進していただきたい。

また、今年度初めて、前年度の外部評価による講評やコメントを踏まえながら、その対応状況や成果を明確にフィードバックいただけたことに非常に感謝するとともに、外部評価を活用した事業取組のPDCAサイクルが機能し、AP 事業全体の体系化が進んでいることが非常に感じられた。

AP 事業最終年度に向け、残された課題をこなし、補助期間終了後の継続性を意識しながら、その取組を確実に進めていただきたい。なお、幾つか細かい点でコメントを付しておきたい。

- 1) AP 事業は補助事業であるため、どうしても数値目標の達成度が求められる。最終年度に向けて、改善は見られるが、「授業満足度アンケートを実施している学生の割合」「授業満足率」「学修・生活実態調査の実施率」について、更なる努力を続けていただきたい。また、「授業外学修時間」についても上昇傾向にあるが、引き続き努力を続けていただきたい。
- 2) 「DP 達成度可視化」と「クリティカル・シンキングテストによる学修成果」との関係性を明確化することに期待したい。そのことによって、貴学が重視しているクリティカル・シンキングの価値が高まるように思われる。また、テーマⅠ・Ⅱ複合型の取組として、アクティブ・ラーニングによる学修成果について、各種調査やテスト結果を活用・分析し、成果発信していただきたい。
- 3) 教育学部でのアクティブ・ラーニングの取組の充実等を取り入れながら、AP 事業取組が大学全体に波及しているようなストーリー展開を目標に、更なる充実を図っていただきたい。
- 4) AP 学生グループの一層の活躍を期待しており、学生の声が反映された取組の充実や成果発信を期待したい。
- 5) 補助期間終了後の各種取組の方向性や実施体制のあり方について、最終年度中に明示いただきたい。

外部評価委員会の様子



V. 参考資料等

1. アクティブ・ラーニングの手法の体系化 (国際教養学部)

国際教養学部の教員へのインタビュー及び授業観察を実施し、教員が使用している AL の手法を分析し、AL の特性に応じた以下の 33 種類 AL の手法を特定した。

外向き：他者と共に行う学習活動

内向き：思考や記述など、個人で行う学習活動

準備型：事前に準備が必要な学習活動

即興型：その場の状況に応じて展開する学習活動

AL の分類	
分類 1: 内向き-準備型 (全 7 種類) 1. クリエイティブ・ライティング 2. 自己評価 3. 言い換えや要約の記述 4. フィードバック・アンケート／レポート 5. ジャーナル・ライティング (振り返りの記述) 6. リアクション・ライティング 7. 卒業論文	分類 2: 外向き-準備型 (全 6 種類) 1. スキットやドラマ制作 2. ディベートやパネル討論 3. プレゼンテーションやリバーズ・プレゼン 4. 創造的な朗読 5. アンケートやインタビュー 6. ピア・ティーチング
分類 3: 内向き-即興型 (全 5 種類) 1. 作文についての筆記による相互評価 2. 熟考する時間 3. アクティブ・リスニング 4. 読解 5. 非言語での言い換えや要約	分類 4: 外向き-即興型 (全 11 種類) 1. 対話式講義 2. ファシリテートされたディスカッション 3. 自由討論 4. 事例研究 5. ロールプレイや即興スキット 6. ジグソー・アクティビティ 7. 口頭での言い換えや要約 8. インフォーマルなディベート 9. 質問に対するグループワーク 10. ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア 11. 作文についての口頭での相互評価
分類 5: すべてのカテゴリーに含まれる AL (4 項目) 1. 学生が協力して行うプロジェクト 2. 実地研修やシミュレーション 3. 地域コミュニティに根ざしたプロジェクト 4. 学生による評価基準の作成	

アクティブ・ラーニングの手法の詳細

分類 1: 内向き-準備型 (全 7 種類)

1. クリエイティブ・ライティング

物語の作成、登場人物の発展、その他の文学的要素を用い、考えや感情を記述する。

2. 自己評価

教員が作成した授業の評価基準に照らし、学生は自分のパフォーマンスを自己評価する。

3. 言い換えや要約の記述

要点を自分の言葉で言い換えたり、まとめたりして記述する。

4. フィードバック・アンケート／レポート

学期中に数回、又は中間期に、学生は授業についての評価やフィードバックを行う。効果的だった授業内のアクティビティや取り組みたいアクティビティ、又は、学修効果を向上させるための行動目標に関するフィードバックを行う。

5. ジャーナル・ライティング (振り返りの記述)

学生は、授業や課題に対する自分の考え、勉強法、成功や失敗などの様々なトピックについて書く。ここで言うジャーナルとは、振り返りに重点をおいた記述で、文献のリサーチ等は余り必要としない。教員がフィードバック、編集、評価などをする場合もある。スラスラと書く練習なので、通常成績はつけず、文法もチェックしないことが多い。

6. リアクション・ライティング

学生は読んだ文章に対して自分の意見を書く。読んだ文章の要約を書いてから、自分の意見を書く場合が多い。

7. 卒業論文

学生は文献を読み、詳しい調査を行い、命題、仮説及び研究課題を立て、論文のアウトラインを作成する。担当教員の指導の下、書いては編集・訂正するというサイクルを繰り返し、論文を完成させる。

分類 2: 外向き-準備型 (全 6 種類)

1. スキットやドラマ制作

学生は、クラスメイトと共にクラス全員の前で、与えられたストーリーの台詞を言う。授業外の時間でリハーサルが必要な場合も多い。言語習得が目的の場合は、特定の言語パターンや表現を使う。ドラマ制作では、準備のための十分な時間が与えられ、学生は複数の場面を含む演劇の脚本を作る。演じる学生は1～10人位で、小説の一場面を演劇にすることもある。

2. ディベートやパネル討論

学生はあるテーマについて、予め決められた方法で、賛成か反対かに分かれ、議論を進める。大抵の場合、授業外の時間に準備をする時間が与えられ、発言する時間は予め設定されている。パネルディスカッションでは、学生がグループ毎に与えられたテーマについて調べ、クラス全体の前でディスカッションを行う。学生は他のパネルメンバーの見解に対して意見を述べたり、質問したりする。

3. プレゼンテーションやリバーズ・プレゼンテーション

学生は、小グループやクラス全体に対して、個人又はグループで発表をする。プレゼンテーションの内容は、個人又は3～5人のグループで準備し、スライドやポスターを作る場合もある。リバーズ・プレゼンテーションとは、通常の発表と同じように、個人や小グループで内容を準備するが、発表を聴く学生が質問し、それに発表者が答える形で進められる。発表者は、聴衆から質問を上手に引き出す必要もある。

4. 創造的な朗読

個人又はグループで小グループやクラス全体に向けて、丸暗記ではなく、自分の創作を交えながら詩や文章を朗読する。

5. アンケートやインタビュー

学生は問いを立て、データを集めるためのアンケートを実施したり、フィールドワークを行ったりする。

6. ピア・ティーチング

個人又はグループが先生役となり、小グループやクラス全体に対して、授業を行う。講義型の一方通行な授業でも良いし、ワークショップや参加型のレッスンでも良い。教員が予め準備したパワーポイントを使うなど、ある程度構成される場合もあれば、自由に行う場合もある。

分類 3: 内向き-即興型 (全5種類)

1. 作文についての筆記による相互評価

学生同士で、作文を見せ合い、互いにコメントし合う。教員や学生が作った作文の評価表を使っても良い。コメントは用紙に記入し、筆者に渡す。

2. 熟考する時間

授業中に学んだり、読んだりしたことに対して、学生が振り返り、感想や意見をまとめる時間を取る。

3. アクティブ・リスニング

理解が難解な講義やリスニングの文章について、キーワードや全体的な意味を拾うよう、学生に指示をする。学生は、何度も繰り返し聞くことで、徐々に全体的な意味を聞き取ることができるようになる。

4. 読解

学生は文章を表面的に読むのではなく、文章の意味を深く考える。(詩を読む時などに活用される。)

5. 非言語での言い換えや要約

学生は、言語以外の媒体(例えば、図、グラフ、チャート等)で、講義や文章の要点を言い換えたり、まとめたりする。

分類 4: 外向き-即興型 (全 11 種類)

1. 対話式講義

学生は頻繁に質問、意見、見解を述べるのが義務付けられている中で、教員が講義を行う。

2. ファシリテートされたディスカッション

学生1人がファシリテーターとなり、他の学生は、割り当てられた役割を担当し、ファシリテーターの指示に従いディスカッションを行う。

3. 自由討論

決められた時間内に、または時間制限なく、与えられたトピックに関するディスカッションを行う。役割は決められておらず、学生が自由に行う。

4. 事例研究

学生は、教員が提示した事例について深く調査し、最適と思われる解釈や結論を出す。

5. ロールプレイや即興スキット

学生は短い演劇での役割を演じる。通常は、授業の中で台本を書き、役を演じるリハーサルを行う。また、即興スキットでは、適切な言葉や表現を使って、与えられた場面を即興で演じる。

6. ジグソー・アクティビティ

学生は、お互いに異なる情報を持ち、課題を完成させる為に、お互いの持っている情報を伝え合う。別の方法として、学生はグループ・ディスカッションに参加し、その後、別のグループに移動し、前のディスカッションの内容を報告する。

7. 口頭での言い換えや要約

学生は、ある文章を口頭で言い換えたり、自分の言葉で要点を述べる。

8. インフォーマルなディベート

学生は、余りルールのない中で、あるテーマに賛成か反対かの意見を自由に述べる。大抵の場合、事前に準備をすることはなく、時間の制限も緩やかである。学生は、どちら側の意見につくかは自分で決めることができる。

9. 質問に対するグループワーク

提示された質問に対して、グループで協力して答える。

10. ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア

学生は、与えられたトピックに対し、意見、答え、解決案などを考え、パートナーやグループで共有する。共有することで意見などを更にまとめ、更に大きなグループやクラス全体に発表する。

11. 作文についての口頭での相互評価

学生は、お互いの作文を評価する評価シートを記入した後、パートナーやグループに対し、評価結果の口頭説明をする。

分類 5: すべてのカテゴリーに含まれる AL (4 項目)

1. 学生が協力して行うプロジェクト

学生は、大きな課題を分担し、協力して作業する。課題完了後は、クラス全員の前で発表したり、また、レポート、エッセイ、ウェブサイト等として提出する。

2. 実地研修やシミュレーション

学生は、実際の状況で知識を応用する。例えば、経済学での知識をインターンシップ等で活用する。新しいことを教える手段として、講義の前にシミュレーションを行うこともできる。異文化体験のシミュレーションとして、例えば、日本の人口の半分以上が外国人という場面から、文化や適応について考える。

3. 地域コミュニティに根ざしたプロジェクト

学生は、個人又は他の学生と協力して、地域社会の中で、ボランティアなどのプロジェクトを行う。

4. 学生による評価基準の作成

課題、パフォーマンス、プロジェクトなどの評価基準を学生自身が作成する。

2. MIC-AP ニュースレター

日本語版



宮崎国際大学
Miyazaki International College

MIC-AP NEWSLETTER

Newsletter of MIC-AP

文部科学省から認定された
大学教員再生加速プログラム



平成 30 年度版(平成 31 年 3 月発行)

CONTENTS

- 今年度事業の概要 ●AP 合同シンポジウム ●活動の様子
- 2018 年度の活動ハイライト: AP 事業への学生の参画

発行: 宮崎国際大学 AP 事務局
〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地
TEL.0985-85-5931(代) FAX.0985-84-3396
URL: <http://www.mic.ac.jp/>

2018 年度事業の概要

2014 年度に文部科学省の大学教育再生加速プログラム (AP) テーマ I・II に採択された本学の AP 事業は、5 年目を終え、いよいよ残り 1 年となりました。本学は開学以来、「アクティブ・ラーニング (AL) によるクリティカル・シンキング (GT) 能力の育成」が教育の中核であり、AP 事業でも、この教育を発展させることが取組の中心です。今年度は、AL の事例集の作成、GT テストの実施、e-ポートフォリオ活用の推進などに取り組みました。また、学生は、ディプロマ・ポリシー (DP) で示した学修目標の達成度を測定するための「DP40 の能力項目」を使って、自己評価を行いました。また、各授業で育成する能力項目を定めることで、大学全体での DP の達成に向けた取組も開始しました。更に、来年度の完成年度に向けて、これまでの本取組の教育効果をより高めるため、実際に授業を享受する学生の視点を AP に盛り込むことを目的とした「AP 学生グループ」を立ち上げました。本グループは学生目線で、本学の AL を改善し、更に学修効果を高めるよう、活動しています。

本学の AP 事業の目標

テーマ I : アクティブ・ラーニング

1. 実践している AL を体系化し、その成果を検証して、効果的な AL の手法を提示する。
2. 英語スキルを向上させる AL プログラムの構築

テーマ II : 学修成果の可視化

1. クリティカル・シンキングを測定するツールの開発
2. ルーブリック・ベース・シラバスの導入による学修の PDCA の確立
3. e-ポートフォリオを用いた学修成果の可視化

AP 合同シンポジウム

2019 年 2 月 16 日 (土) に、本学と同じテーマ I・II 採択校の関西国際大学と合同の AP シンポジウムを開催しました。テーマは「社会が求める力をどのように育成し可視化するか」で、文部科学省高等教育局大学振興課 大学改革推進室室長の平野博紀氏を来賓として迎え、(独)労働政策研究・研修機構の小杉礼子氏が「企業の評価と大学の評価—その接点を考える—」というタイトルで、基調講演を行いました。本学の参加者を含めて、108 名の参加がありました。



本学からは、西村学長補佐が登壇し、事例報告及びパネルディスカッションに参加しました。本学が開学以来、先進的に取り組んできたグローバル教育、そして、その教育を発展させている本学の AP 事業を紹介しました。また、パネルディスカッションのパネラーとして議論に参加しました。

今後、ますます重要になる大学教育での学修成果と社会で必要となる力の接点を考える良い機会になりました。最後は、本学の山下学長の閉会の挨拶で、シンポジウムは幕を閉じました。

活動の様子

全学 FD 研修会の開催

本学の全教員に対して、AP 事業への取組を説明する「全学 FD 研修会」を実施しました。本事業のこれまでの成果と今後の予定に関する理解を促進させることができました。最終年度に向けて大学全体で本事業に取り組み、成功させるように呼びかけました。



英語力ページの導入

これまでに本学の e-ポートフォリオは、授業への導入 (ICT 入門、リベラルアーツ入門など) や「1 年次のまとめのページ」、「2 年次の留学ページ」を作成しました。今年度より、国際教養学部で重要な英語力のページを導入しました。自身の英語力を振り返り、目標設定し、主体的な学修が促されるよう、取り組んでいます。

本取組の発表

今年度も、本取組の成果を積極的に対外に発信しました。大学教育学会、Asian Conference on Education、そして、他大学主催の AP シンポジウムで本学の AP 事業への取組を発表し、本取組内容を周知するとともに、研究者や教育者と交流することで、有益な知見が得られました。



2018 年度の活動ハイライト:AP 事業への学生の参画

AL 改善のための学生グループの紹介

本学の AP 事業は、「授業における AL を発展・充実させるとともに、e ポートフォリオで学修成果を可視化するなどの新しい取組を通し、学生の主体的な学修を効果的に促進する」取組です。しかし、どんなに教育内容や教育システムが向上しても、教育を受ける側の学生が、それらの目的をしっかりと理解し、活用出来なければ、大きな効果は望めません。そこで、本事業の取組を、学生の視点から効果的に享受し活用するための方策を考える「AP 学生グループ」を立ち上げました。主体的学修を促進するためにはどうすればいいのか、学生自身に検討してもらいます。今年度の具体的な活動として、AL の授業への効果的な取組方法をまとめた冊子を作成しました。また、e ポートフォリオの活用についても、学生目線でその効果を検証し、改善案を提示しました。更に、下級生の e ポートフォリオ・オリエンテーションの支援や AP 合同シンポジウムでの学生ポスターの発表も精力的に行い、学生の教育改革への参画はより活発になっています。本 AP 事業で取り組んだことを、学生がその意図通りに享受し、その教育効果を高め、社会で活躍できる人材になれるよう、今後とも取り組んでいきます。

AP 合同シンポジウムでの学生ポスター発表



本学での主体的な学修を実現するための方法を学生目線で紹介するポスター発表を実施しました。

e ポートフォリオの改善



学生の視点で e ポートフォリオ活用に関する改善案を提示した他、3 年次及び 4 年次のページも開発しました。

後輩の支援

「1年のまとめ」ページの e ポートフォリオ・オリエンテーション



後輩の指導



1 年生の e ポートフォリオ・オリエンテーションを支援し、1 年生は実際に e ポートフォリオを使用している先輩から、話が聞けました。

AL の授業への取組方法の冊子の作成



冊子の内容

- AL の手法
- 育成される英語力の種類
- 学修効果
- AL の手順・困難・対処法



AL の授業への効果的な取組方法を冊子にまとめました。新入生や在学生がこの冊子を参考にし、より主体的に授業に臨めるようにします。

2018 年度の主な活動

- 4 月 新入生へ「DP ルーブリック自己評価」を実施
- 4 月 全学合同 FD 研修会を開催
- 4 月～ e-ポートフォリオ・オリエンテーションを実施
- 4 月～ 学生にクリティカル・シンキングテストを実施
- 6 月 CT を育成する AL に関する FD を実施
- 7 月 DP ルーブリックに関する FD を実施
- 9 月 AP 合宿に参加
- 10 月 Asian Conference on Education にて、本学の CT への取組を発表
- 12 月 高知大学 AP シンポジウムで、本学の取組全体のポスターを発表
- 2 月 関西国際大学との合同 AP シンポジウムを開催
- 3 月 2018 年度外部評価委員会開催

2019 年度の主な活動予定

- 4 月 新入生への「DP ルーブリックの自己評価」に関するオリエンテーションの実施
- 4 月～ CT グテストの実施
- 3 月 e-ポートフォリオ・オリエンテーションの実施
- 他大学主催の AP シンポジウムや AP 事業の内容に関連した学会等で、本学の取組を発表
- 7 月 AL に関する FD の実施
- 8 月 DP ルーブリックの成績からの評価システムの整備
- 8 月 AL の事例を教員から収集
- 12 月 これまでの取組の全体を発表する FD 報告会の実施
- 1 月 AL 事例集の作成
- 2 月 AP 合同報告会の開催
- 3 月 本取組の最終事業報告書の作成



宮崎国際大学
Miyazaki International College

MIC-AP NEWSLETTER

Newsletter of MIC-AP School Year 2018 (March, 2019)



CONTENTS

- 2018 Project Summary ●Symposium ●AP Activities
- 2018 Highlight : Student Participation in the AP Project

Issued by the AP Office
Miyazaki International College
1405 Kano, Kiyotake,
Miyazaki 889-1605, Japan

2018 Project Summary

Our Acceleration Program for University Education Rebuilding (AP) project completed its 5th year, with now only 1 year remaining. Since our founding, "Development of Critical Thinking through Active Learning" has been the core of our education, and this year, in advancement of this we have created a compilation of AL examples, implemented Critical Thinking tests, and promoted e-portfolio use. We conducted self-assessment of students on the basis of 40 subcategories of our Diploma Policy (DP) and designated items addressed in each course, thereby enabling students to approach coursework with DP achievement in mind. Furthermore, we established an "AP Student Group", incorporating student perspectives in our AP project to yield better educational results. This group works with us toward improvement in AL to further increase learning outcomes in the final year.

MIC-AP Goals

Theme I : Active Learning (AL)

1. To identify/categorize AL teaching strategies in use at MIC, and determine effective AL teaching practices
2. To create an AL program to improve English skills

Theme II : Visualization of Learning Outcomes

1. To develop a critical thinking assessment tool
2. To establish a PDCA learning cycle through rubric-based syllabi
3. To visualize learning outcomes through an e-Portfolio

AP Joint Symposium

On February 16, 2019 we hosted a Joint AP Symposium with Kansai University of International Studies, which is also engaged in an AP project based on Themes I and II. Commencing with opening remarks by Mr. Hiroki Hirano from MEXT, the theme of the symposium was "how to develop and visualize the abilities required by society". Reiko Kosugi from the Japan Institute for Labor Policy and Training gave the keynote speech under the title of "Assessing Companies and Universities--Considering the Common Points". 108 people, including the participants from host colleges, were in attendance.



Naoki Nishimura, Assistant to the President of MIC, introduced our AP project and participated in the panel discussion. He introduced the MIC educational system, which has focused on global education since its inception, and explained how the AP project further advances this. The symposium was closed with a greeting from President Keiko Yamashita of MIC.

Snapshots of Our Activities

FD for All Faculty

Recent efforts in the AP project were explained in an all-faculty FD session. This opportunity promoted understanding of our previous results and future plans. Faculty were called on to continue to contribute to successful completion of the project



The English skills page

Various pages, such as 1st year and 2nd year pages, have been incorporated into our e-Portfolio repertoire. This year we added an English skills page. By referring to this page to assess their own English skills and setting goals, students can be encouraged to study independently.

Conference & AP Symposium

As in past years, we continue to actively externally publicize our results in this project, presenting our efforts toward the AP project at conferences and an AP Symposium and promoting interaction with researchers and educators, gaining valuable wisdom.





2018 Activity Highlight: Student Participation in the AP Project

Introducing the AP Student Group for AL Improvement

Our AP project aims to "promote effective autonomous student learning through new efforts such as visualizing learning outcomes via an e-portfolio promoting further development of AL in courses". However, no matter how much we improve our educational contents and systems, we cannot achieve significant educational outcomes unless our students properly understand these goals and utilize the education we provide. To this end, we established an "AP Student Group" which considers measures to effectively make students receptive to the efforts in this project. The student group investigates means of promoting autonomous student learning and created a booklet explaining effective methods for taking active learning courses. Furthermore, they investigated e-portfolio usage from student perspectives and presented ideas for improvements. They also provided support for an e-portfolio orientation of underclassmen and presented a poster at the Joint AP Symposium. In this way, student participation in educational reform will become more active going forward. The student group will make further efforts in the future to increase educational outcomes, making students more successful as working members of society.

Poster Presentation @ Joint Symposium



The student group presented a poster on how to realize autonomous learning from student perspectives.

e-Portfolio Improvements

Improving the Pages that have been previously developed



The student group discussed and presented ideas for e-Portfolio improvements and developed 3rd year and 4th year pages.

Support for Freshmen

@ ePortfolio Orientation for Freshmen



Support for Freshmen



The student group provided support to freshmen during an e-Portfolio orientation.

Booklet on How to Engage in AL courses



- Contents
- AL teaching activities
 - Target English skills
 - Learning Outcomes
 - AL procedures & Strategies



The student group compiled a booklet of effective methods of engagement in AL courses. New and existing students can refer to this booklet in their efforts toward autonomous learning.

2018 AP Major Activities

April	DP Rubric Self-Assessment for Freshmen
April	FD session for all faculty
April	E-portfolio Orientation
April	Critical Thinking Test Implementation
June	FD session on how to develop CT through AL
July	FD session on DP rubric
September	Participation in AP Training Camp
October	Presentation at the Asian Conference on Education
December	Poster Presentation at the Kôchi University AP symposium
February	Hosting Joint AP Symposium with Kansai University of International Studies
March	2018 External Evaluation Committee

2019 AP Plan

April	DP Rubric Self-Assessment for Freshmen
April - March	• Critical Thinking Test • E-portfolio Orientation • Presentations at AP symposiums hosted by other institutions and conferences relating to AP project
July	FD Session on AL
August	Adjustment of evaluation system from the results of the DP-Rubric
August	Collecting AL Activity Examples from Faculty
December	FD debriefing session to announce overall AP efforts and outcomes up to this point
January	Creating Compilation of AL Activities
February	AP Joint Symposium
March	Creation of the Final AP Project Report

3. 宮崎国際大学 AP プロジェクト・メンバー

- ルーブリック WG
 - Erik Bond
 - Lloyd Walker
 - Alan Simpson

- クリティカル・シンキング WG
 - Christopher Johnson
 - James Furse

- AP 事務局 e ポートフォリオセンター
 - Satoshi Ozeki (本書・作成及び編集)
 - Masae Nishinaka (編集)

- 宮崎国際大学・AP 事業推進者
 - Keiko Yamashita (President)
 - Naoki Nishimura (Assistant to the President / AP Project Leader)
 - Anderson Passos (Dean: School of International Liberal Arts)
 - Nobuhiro Fukuda (Dean: School of Education)
 - Lloyd Walker (Assistant to the Dean)

平成 30 年度報告書
大学教育再生加速プログラム (AP)
[テーマ I ・ II 複合型]

発行
宮崎国際大学 AP 事務局
〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙 1405 番地
TEL : 0985-85-5931

本書に記載された記事の無断転載・複製を禁じます

